

### 3. アンケート結果

(平成 20 年アンケート結果と平成 30 年アンケート結果の比較)

#### 1. 回答者の属性

##### (1) 性別 (問 1)

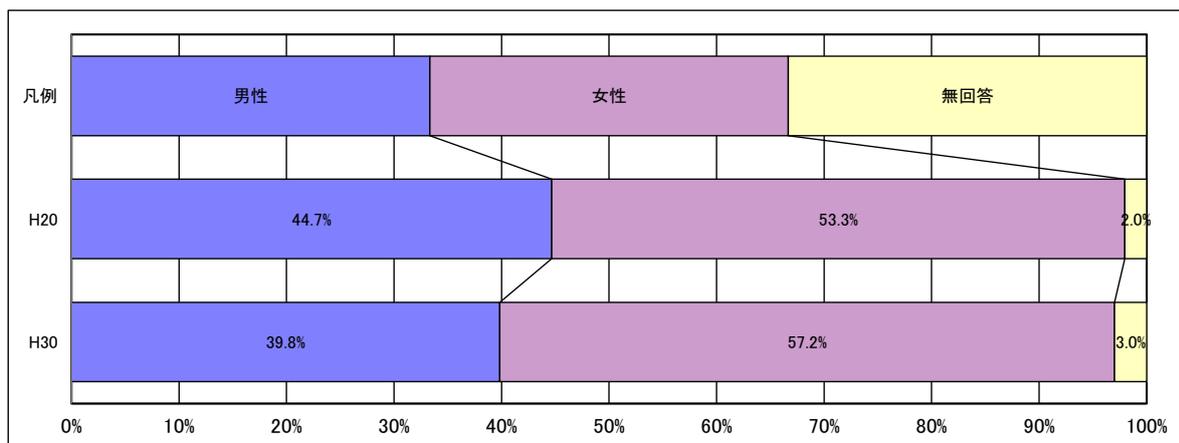
回答者の性別は、平成 30 年調査では「女性」が 57.2%と約 6 割を占め、「男性」は 39.8%と約 4 割を占めています。

平成 20 年調査を比較すると、「女性」の回答者割合が増えて、「男性」の回答者割合が減っています。

表 3- 1 回答者の性別

回答番号	回答内容	H30		H20	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	男性	280	39.8%	420	44.7%
2	女性	402	57.2%	501	53.3%
—	無回答	21	3.0%	19	2.0%
—	計	703	100.0%	940	100.0%

図 3- 1 回答者の性別



(2) 年齢 (問2)

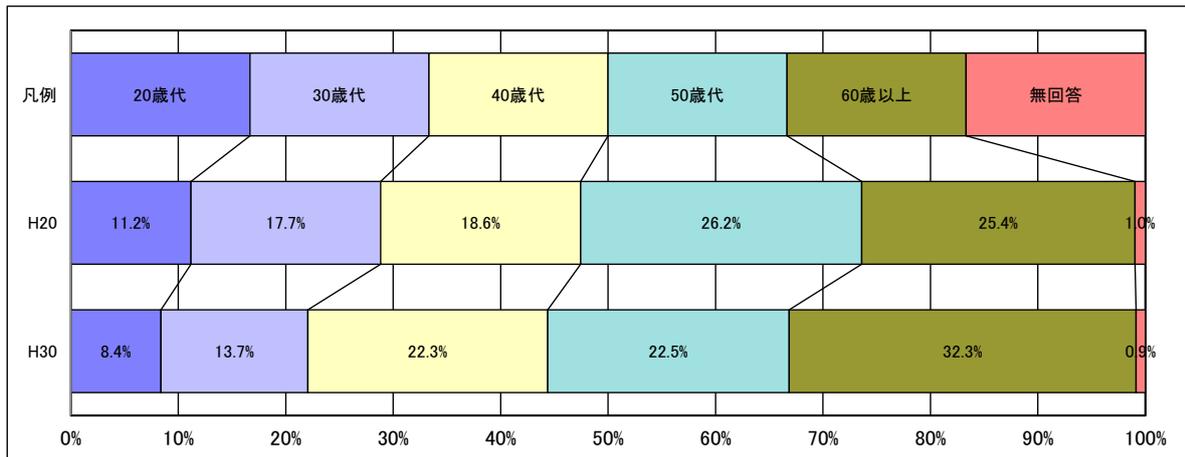
回答者の年齢は、「60歳以上」が32.3%と約3分の1を占めています。次いで、「50歳代」の22.5%、「40歳代」の22.3%と続いています。

平成20年調査と比較すると、「40歳代」「60歳以上」の回答者割合が増えて、「20歳代」「30歳代」「50歳代」の回答者割合が減っています。

表3-2 回答者の年齢

回答番号	回答内容	H30		H20	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	20歳代	59	8.4%	105	11.2%
2	30歳代	96	13.7%	166	17.7%
3	40歳代	157	22.3%	175	18.6%
4	50歳代	158	22.5%	246	26.2%
5	60歳以上	227	32.3%	239	25.4%
—	無回答	6	0.9%	9	1.0%
—	計	703	100.0%	940	100.0%

図3-2 回答者の年齢



(3) 家族構成 (問3)

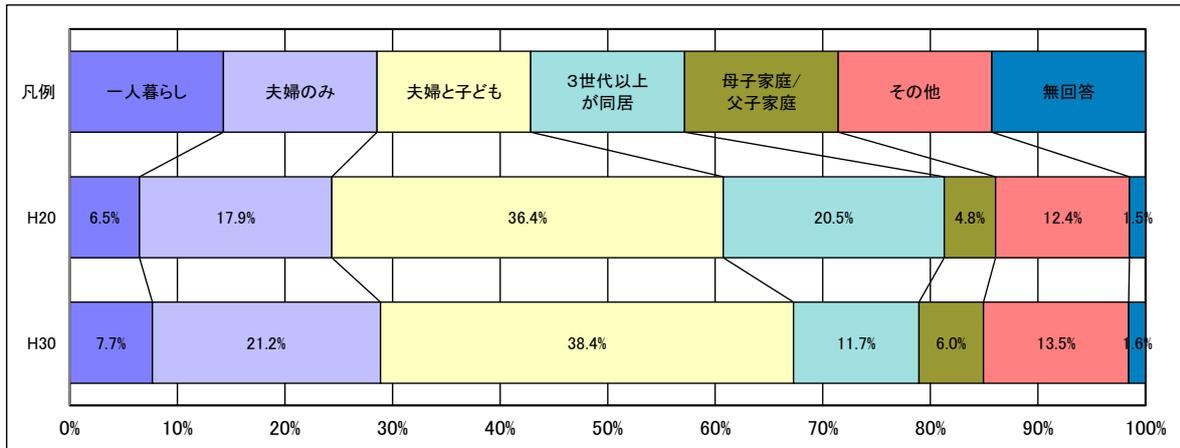
回答者の家族構成は、平成30年調査では「夫婦と子ども」が38.4%と約4割を占め最も多く、次いで「夫婦のみ」の21.2%、「その他」の13.5%と続いています。

平成20年調査と比較すると、「一人暮らし」「夫婦のみ」「夫婦と子ども」「母子家庭/父子家庭」「その他」の回答者割合が増えて、「3世代以上が同居」の回答者割合が減っています。

表 3- 3 回答者の家族構成

回答番号	回答内容	H30		H20	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	一人暮らし	54	7.7%	61	6.5%
2	夫婦のみ	149	21.2%	168	17.9%
3	夫婦と子供	270	38.4%	342	36.4%
4	3世代以上が同居	82	11.7%	193	20.5%
5	母子家庭/父子家庭	42	6.0%	45	4.8%
6	その他	95	13.5%	117	12.4%
—	無回答	11	1.6%	14	1.5%
—	計	703	100.0%	940	100.0%

図 3- 3 回答者の家族構成



(4) 居住地区 (問4)

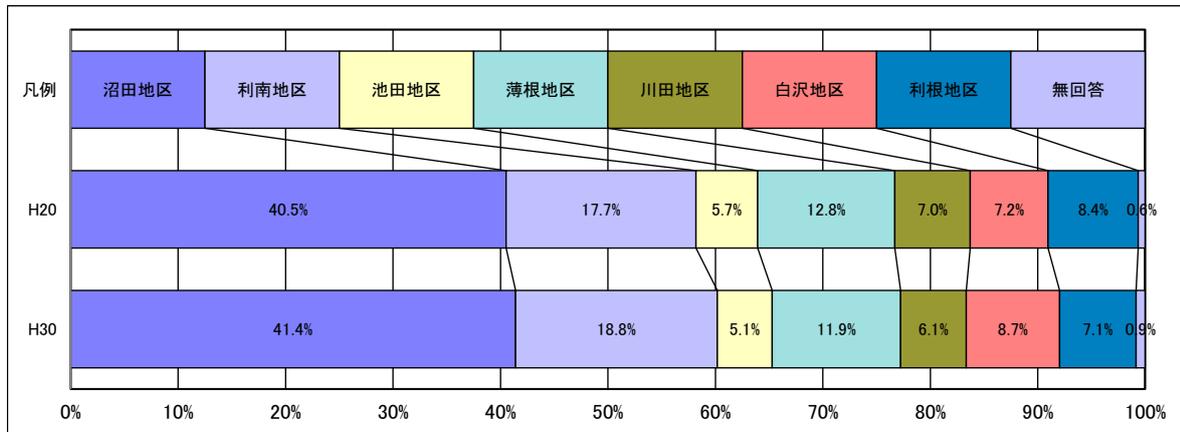
回答者の居住地区は、平成30年調査では「沼田地区」が41.4%と4割を超えています。次いで「利南地区」の18.8%、「薄根地区」の11.9%と続いています。

平成20年調査と比較すると、「沼田地区」「利南地区」「白沢地区」の回答者割合が増えて、「池田地区」「川田地区」「薄根地区」「利根地区」の回答者割合が減っています。

表3-4 回答者の居住地区

回答番号	回答内容	H30		H20	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	沼田地区	291	41.4%	381	40.5%
2	利南地区	132	18.8%	166	17.7%
3	池田地区	36	5.1%	54	5.7%
4	薄根地区	84	11.9%	120	12.8%
5	川田地区	43	6.1%	66	7.0%
6	白沢地区	61	8.7%	68	7.2%
7	利根地区	50	7.1%	79	8.4%
—	無回答	6	0.9%	6	0.6%
—	計	703	100.0%	940	100.0%

図3-4 回答者の居住地区



(5) 職業（問5）

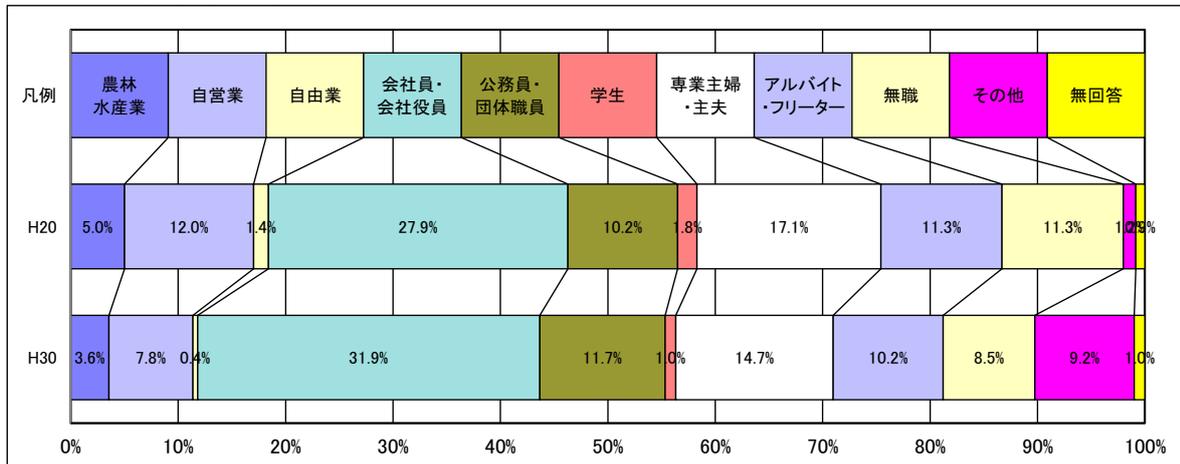
回答者の職業は、平成30年調査では「会社員・会社役員」が31.9%と3割を超えています。次いで「専業主婦・主夫」の14.7%、「公務員・団体職員」の11.7%と続いています。

平成20年調査と比較すると、「会社員・会社役員」「公務員・団体職員」「その他」の回答者割合が増えて、「農林水産業」「自営業」「自由業」「学生」「専業主婦・主夫」「アルバイト・フリーター」「無職」の回答者割合が減っています。

表3-5 回答者の職業

回答番号	回答内容	H30		H20	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	農林水産業	25	3.6%	47	5.0%
2	自営業	55	7.8%	113	12.0%
3	自由業	3	0.4%	13	1.4%
4	会社員・会社役員	224	31.9%	262	27.9%
5	公務員・団体職員	82	11.7%	96	10.2%
6	学生	7	1.0%	17	1.8%
7	専業主婦・主夫	103	14.7%	161	17.1%
8	アルバイト・フリーター	72	10.2%	106	11.3%
9	無職	60	8.5%	106	11.3%
10	その他	65	9.2%	11	1.2%
—	無回答	7	1.0%	8	0.9%
—	計	703	100.0%	940	100.0%

図3-5 回答者の職業



(6) 居住年数 (問6)

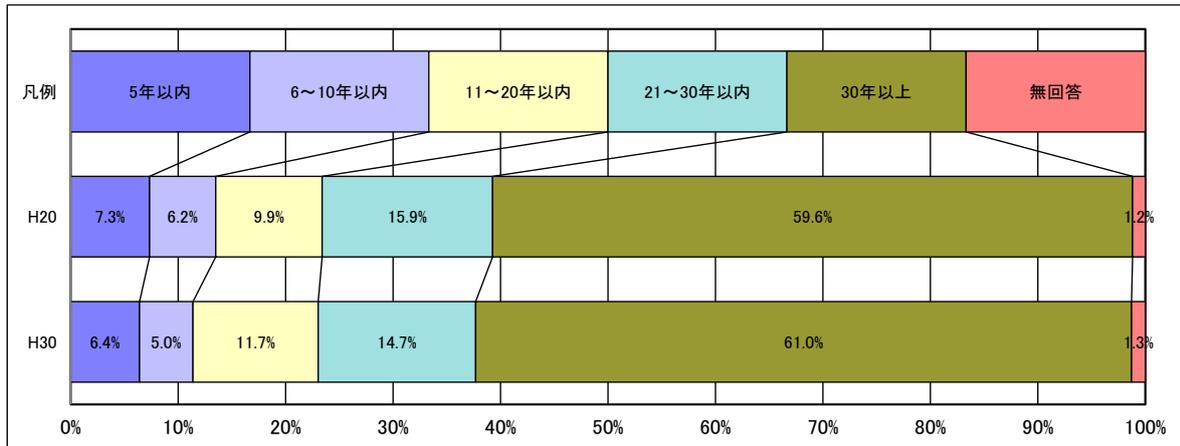
回答者の沼田市の居住年数は、平成30年調査では「30年以上」が61.0%と6割を超えて最も多くなっています。次いで「21～30年以内」の14.7%、「11～20年以内」の11.7%と続いています。

平成20年調査と比較すると、「11～20年以内」「30年以上」の回答者割合が増えて、「5年以内」「6～10年以内」「21～30年以内」の回答者割合が減っています。

表 3- 6 回答者の居住年数

回答番号	回答内容	H30		H20	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	5年以内	45	6.4%	69	7.3%
2	6～10年以内	35	5.0%	58	6.2%
3	11～20年以内	82	11.7%	93	9.9%
4	21～30年以内	103	14.7%	149	15.9%
5	30年以上	429	61.0%	560	59.6%
—	無回答	9	1.3%	11	1.2%
—	計	703	100.0%	940	100.0%

図 3- 6 回答者の居住年数



(7) 居住理由 (問7)

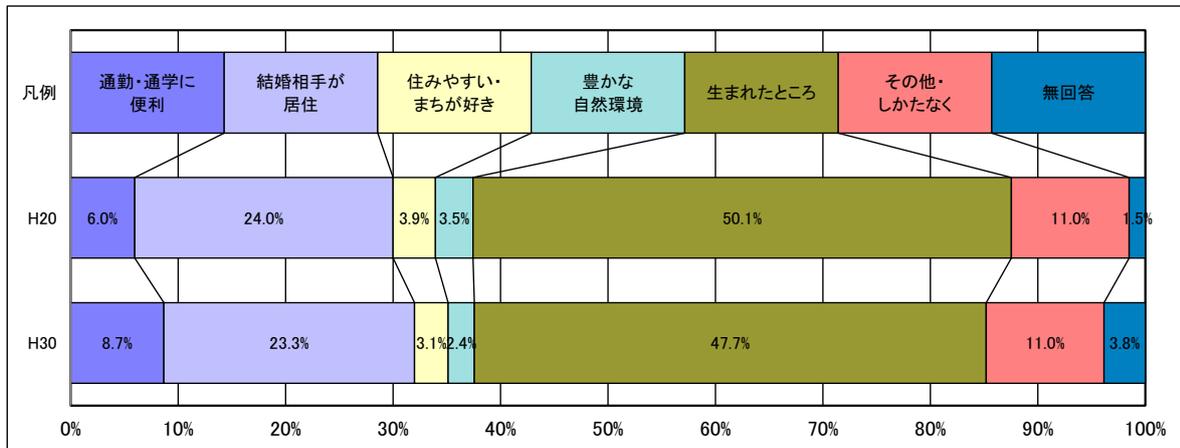
回答者の沼田市に住んでいる理由は、平成30年調査では「生まれたところ」が47.7%と約半数を占めています。次いで「結婚相手が居住」の23.3%、「その他仕方なく」の11.0%と続きます。

平成20年調査と比較すると、「通勤・通学地に便利」の回答者割合が増えて、「結婚相手が居住」「住みやすい・まちが好き」「豊かな自然環境」「生まれたところ」の回答者割合が減っています。「その他・しかたなく」の回答者割合は変わっていません。

表 3- 7 回答者が沼田市に住む理由

回答番号	回答内容	H30		H20	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	通勤・通学地に便利	61	8.7%	56	6.0%
2	結婚相手が居住	164	23.3%	226	24.0%
3	住みやすい・まちが好き	22	3.1%	37	3.9%
4	豊かな自然環境	17	2.4%	33	3.5%
5	生まれたところ	335	47.7%	471	50.1%
6	その他・しかたなく	77	11.0%	103	11.0%
—	無回答	27	3.8%	14	1.5%
—	計	703	100.0%	940	100.0%

図 3- 7 回答者が沼田市に住む理由



(8) 居住継続意向 (問8)

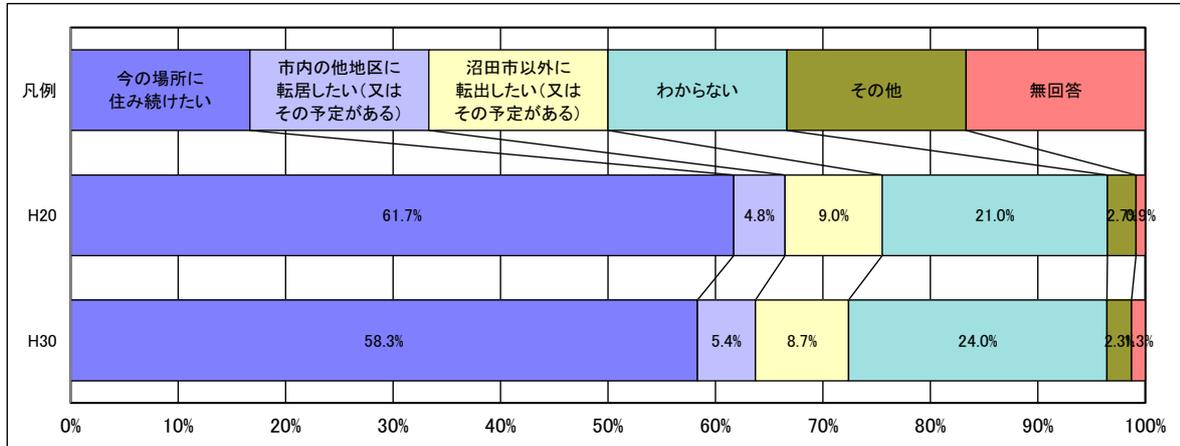
回答者の沼田市の継続居住意向は、平成30年調査では「今の場所に住み続けたい」が58.3%と約6割を占めています。次いで「わからない」が24.0%、「沼田市以外に転出したい(又はその予定がある)」の8.7%と続いています。

平成20年調査と比較すると、「市内の他地区に転出したい(又はその予定がある)」「わからない」の回答者割合が増えて、「今の場所に住み続けたい」「沼田市以外に転出したい(又はその予定がある)」「その他」の回答者割合が減っています。

表3-8 回答者の沼田市への居住継続意向

回答番号	回答内容	H30		H20	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	今の場所に住み続けたい	410	58.3%	580	61.7%
2	市内の他地区に転居したい(又はその予定がある)	38	5.4%	45	4.8%
3	沼田市以外に転出したい(又はその予定がある)	61	8.7%	85	9.0%
4	わからない	169	24.0%	197	21.0%
5	その他	16	2.3%	25	2.7%
—	無回答	9	1.3%	8	0.9%
—	計	703	100.0%	940	100.0%

図3-8 回答者の沼田市への居住継続意向



※問9及び問10は、平成30年調査で新たに追加したため、比較なし

## 2. 行動別の行き先・交通手段

### (1) 通勤先・通学先 (問 11)

#### ① 通勤先・通学先

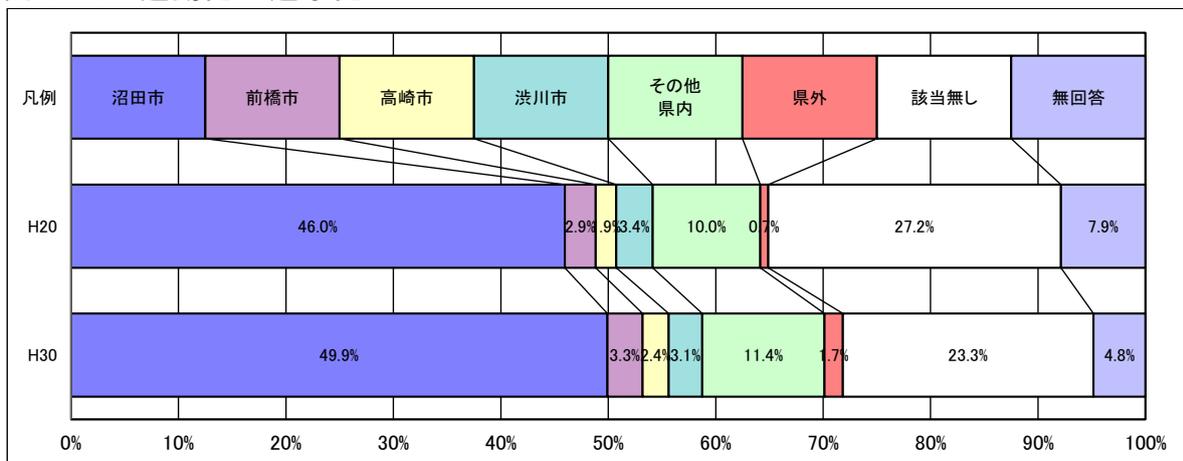
通勤先・通学先は、平成 30 年調査では「沼田市内」が 49.9%と約半数を占めています。次いで「該当なし」の 23.3%、「その他県内」の 11.4%と続いています。

平成 20 年調査と比較すると、「沼田市内」「前橋市」「高崎市」「その他県内」「県外」の回答者割合が増えて、「渋川市」「該当無し」の回答者割合が減っています。

表 3- 9 通勤先・通学先

回答番号	回答内容	H30		H20	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	沼田市内	351	49.9%	432	46.0%
2	前橋市	23	3.3%	27	2.9%
3	高崎市	17	2.4%	18	1.9%
4	渋川市	22	3.1%	32	3.4%
5	その他県内	80	11.4%	94	10.0%
6	県外	12	1.7%	7	0.7%
7	該当なし	164	23.3%	256	27.2%
—	無回答	34	4.8%	74	7.9%
—	計	703	100.0%	940	100.0%

図 3- 9 通勤先・通学先



## ②通勤・通学の主な交通手段

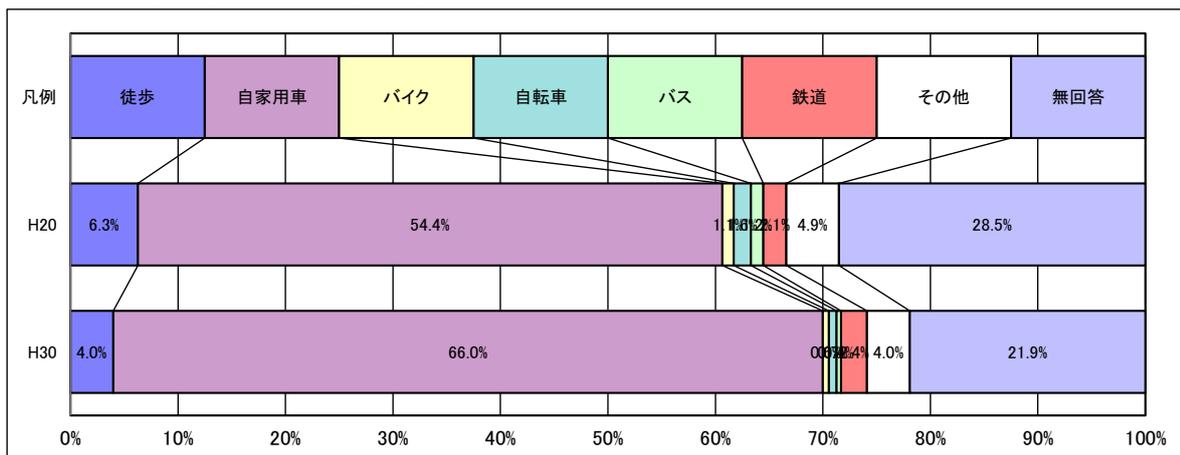
通勤・通学の主な交通手段は、平成30年調査では「自家用車」が66.0%と約3分の2を占めています。次いで「徒歩」の4.0%及び「その他」の4.0%と続いています。

平成20年調査と比較すると、「自家用車」「鉄道」の回答者割合が増えて、「徒歩」「バイク」「自転車」「バス」「その他」の回答者割合が減っています。

表 3- 10 通勤の主な交通手段

回答番号	回答内容	H30		H20	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	徒歩	28	4.0%	59	6.3%
2	自家用車	464	66.0%	511	54.4%
3	バイク	4	0.6%	10	1.1%
4	自転車	5	0.7%	15	1.6%
5	バス	3	0.4%	11	1.2%
6	鉄道	17	2.4%	20	2.1%
7	その他	28	4.0%	46	4.9%
—	無回答	154	21.9%	268	28.5%
—	計	703	100.0%	940	100.0%

図 3- 10 通勤の主な交通手段



(2) 食料品や日用雑貨の購入先 (問 12)

①食料品や日用雑貨などの購入先

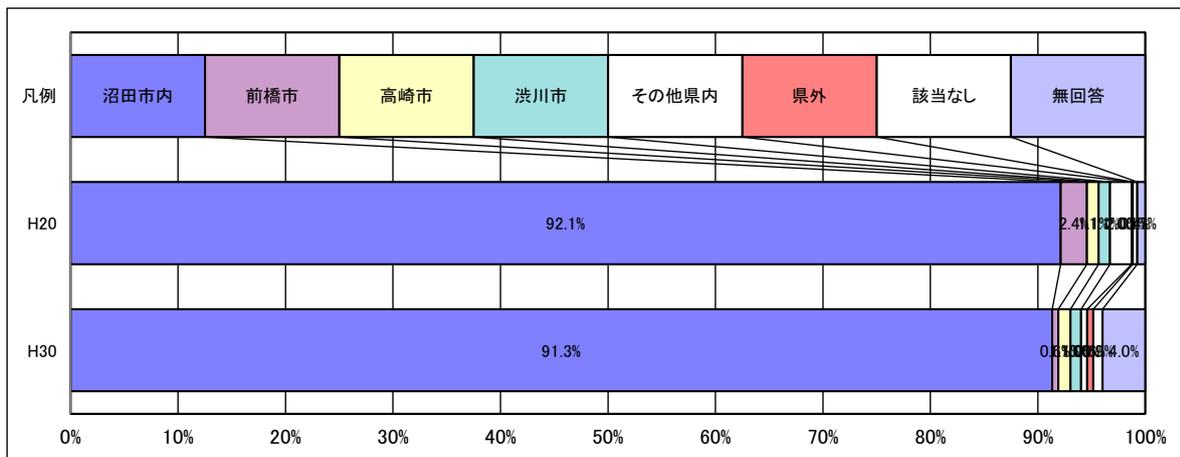
食料品や日用雑貨などの購入先は、平成 30 年調査では「沼田市内」が 91.3%と 9 割以上を占めています。次いで「高崎市」の 1.1%、「渋川市」の 1.0%と続いています。

平成 20 年調査と比較すると、「県外」「該当無し」の回答者割合が増えて、「沼田市内」「前橋市」「渋川市」「その他県内」の回答者割合が減っています。「高崎市」の回答者割合は変わっていません。

表 3- 11 食料品や日用雑貨の購入先

回答番号	回答内容	H30		H20	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	沼田市内	642	91.3%	866	92.1%
2	前橋市	4	0.6%	23	2.4%
3	高崎市	8	1.1%	10	1.1%
4	渋川市	7	1.0%	10	1.1%
5	その他県内	4	0.6%	19	2.0%
6	県外	4	0.6%	1	0.1%
7	該当なし	6	0.9%	4	0.4%
—	無回答	28	4.0%	7	0.7%
—	計	703	100.0%	940	100.0%

図 3- 11 食料品や日用雑貨の購入先



## ②食料品や日用雑貨購入の主な交通手段

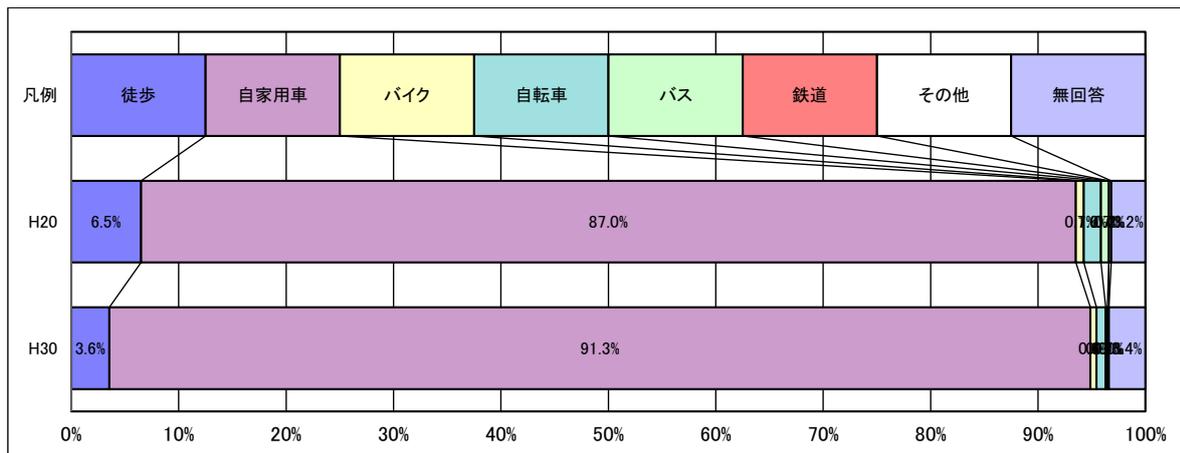
食料品や日用雑貨購入の主な交通手段は、平成 30 年調査では「自家用車」が 91.3%と 9 割を超えています。次いで「徒歩」の 3.6%、「自転車」の 0.9%と続いています。

平成 20 年調査と比較すると、「自家用車」「鉄道」の回答者割合が増えて、「徒歩」「バイク」「自転車」「バス」「その他」の回答者割合が減っています。

表 3- 12 食料品や日用雑貨購入の主な交通手段

回答番号	回答内容	H30		H20	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	徒歩	25	3.6%	61	6.5%
2	自家用車	642	91.3%	818	87.0%
3	バイク	4	0.6%	7	0.7%
4	自転車	6	0.9%	15	1.6%
5	バス	1	0.1%	7	0.7%
6	鉄道	1	0.1%	0	0.0%
7	その他	0	0.0%	2	0.2%
—	無回答	24	3.4%	30	3.2%
—	計	703	100.0%	940	100.0%

図 3- 12 食料品や日用雑貨購入の主な交通手段



(3) 家具や家電、贈答品の購入先 (問 13)

①家具や家電、贈答品の購入先

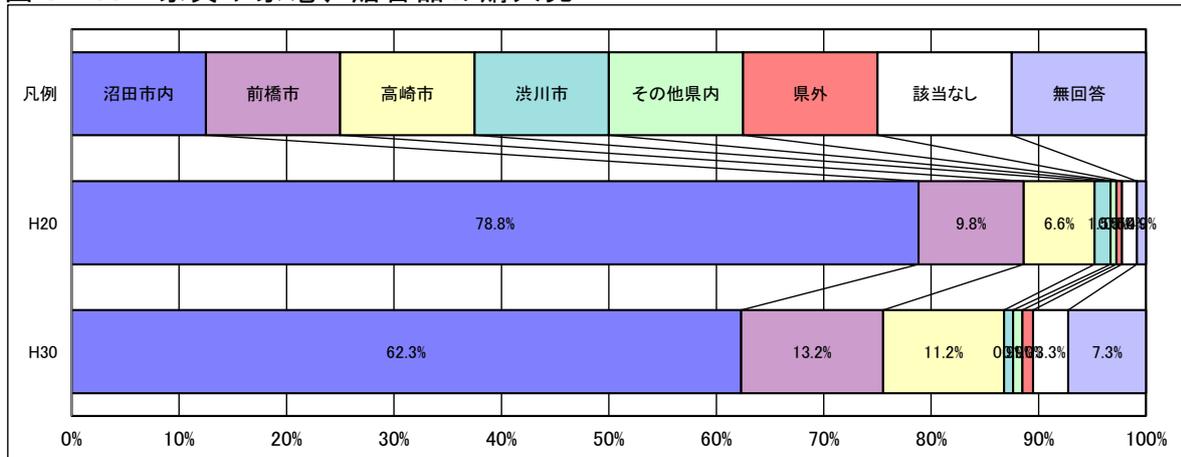
家具や家電、贈答品など、いわゆる「買回り品」の購入先は、平成 30 年調査では「沼田市内」が 62.3%と約 3 分の 2 を占めています。次いで「前橋市」の 13.2%、「高崎市」の 11.2%と続いています。

平成 20 年調査と比較すると、「前橋市」「高崎市」「その他県内」「県外」「該当無し」の回答者割合が増えて、「沼田市内」「渋川市」の回答者割合が減っています。

表 3- 13 家具や家電、贈答品の購入先

回答番号	回答内容	H30		H20	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	沼田市内	438	62.3%	741	78.8%
2	前橋市	93	13.2%	92	9.8%
3	高崎市	79	11.2%	62	6.6%
4	渋川市	6	0.9%	14	1.5%
5	その他県内	6	0.9%	5	0.5%
6	県外	7	1.0%	5	0.5%
7	該当なし	23	3.3%	13	1.4%
—	無回答	51	7.3%	8	0.9%
—	計	703	100.0%	940	100.0%

図 3- 13 家具や家電、贈答品の購入先



## ②家具や家電、贈答品購入の主な交通手段

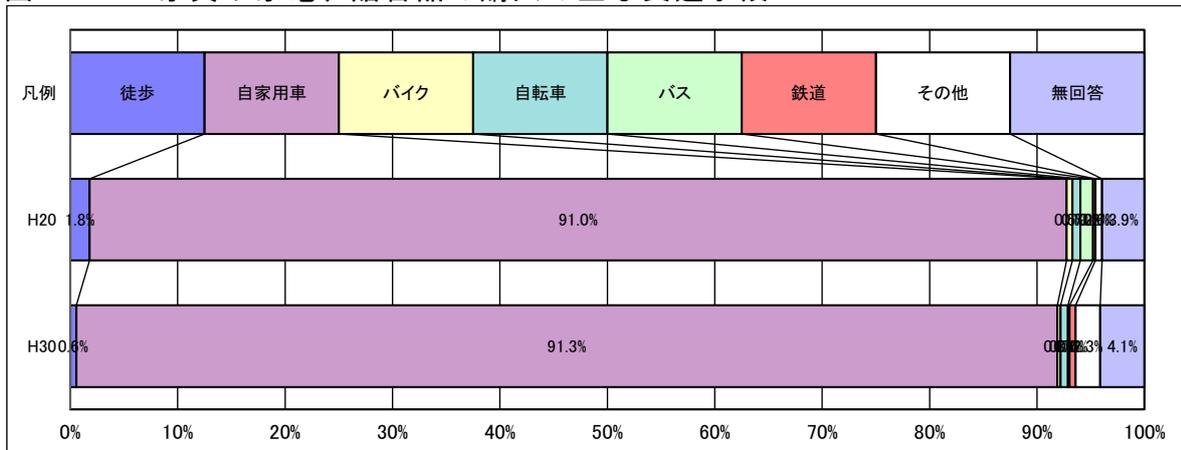
いわゆる「買回り品」購入の主な交通手段は、平成 30 年調査では「自家用車」が 91.3%と 9 割を超えています。次いで「その他」の 2.3%、「自転車」の 0.7%と続いています。

平成 20 年調査と比較すると、「自家用車」「鉄道」「その他」の回答者割合が増えて、「徒歩」「バイク」「バス」の回答者割合が減っています。「自転車」の回答割合は変わっていません。

表 3- 14 家具や家電、贈答品の購入の主な交通手段

回答番号	回答内容	H30		H20	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	徒歩	4	0.6%	17	1.8%
2	自家用車	642	91.3%	855	91.0%
3	バイク	2	0.3%	5	0.5%
4	自転車	5	0.7%	7	0.7%
5	バス	1	0.1%	11	1.2%
6	鉄道	4	0.6%	2	0.2%
7	その他	16	2.3%	6	0.6%
—	無回答	29	4.1%	37	3.9%
—	計	703	100.0%	940	100.0%

図 3- 14 家具や家電、贈答品の購入の主な交通手段



(4) 休日の遊びや外出の行き先 (問 14)

① 休日の遊びや外出の行き先

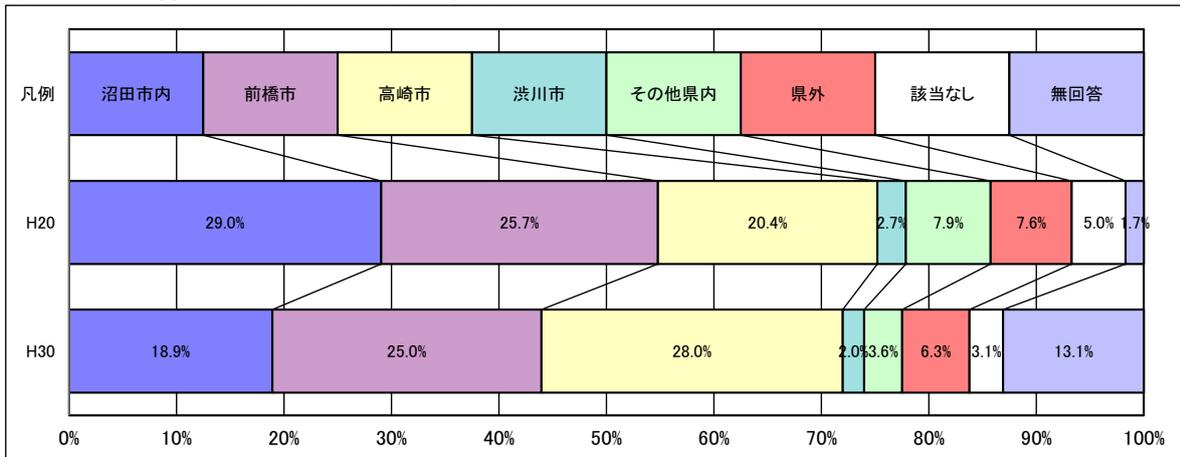
休日の遊びや外出の行き先は、平成 30 年調査では「高崎市」が 28.0%と約 3 割を占めています。次いで「前橋市」の 25.0%、「沼田市内」の 18.9%と続いています。

平成 20 年調査と比較すると、「高崎市」の回答者割合が増えて、「沼田市内」「前橋市」「渋川市」「その他県内」「県外」「該当無し」の回答者割合が減っています。

表 3- 15 休日の遊びや外出の行き先

回答番号	回答内容	H30		H20	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	沼田市内	133	18.9%	273	29.0%
2	前橋市	176	25.0%	242	25.7%
3	高崎市	197	28.0%	192	20.4%
4	渋川市	14	2.0%	25	2.7%
5	その他県内	25	3.6%	74	7.9%
6	県外	44	6.3%	71	7.6%
7	該当なし	22	3.1%	47	5.0%
—	無回答	92	13.1%	16	1.7%
—	計	703	100.0%	940	100.0%

図 3- 15 休日の遊びや外出の行き先



## ②休日の遊びや外出の主な交通手段

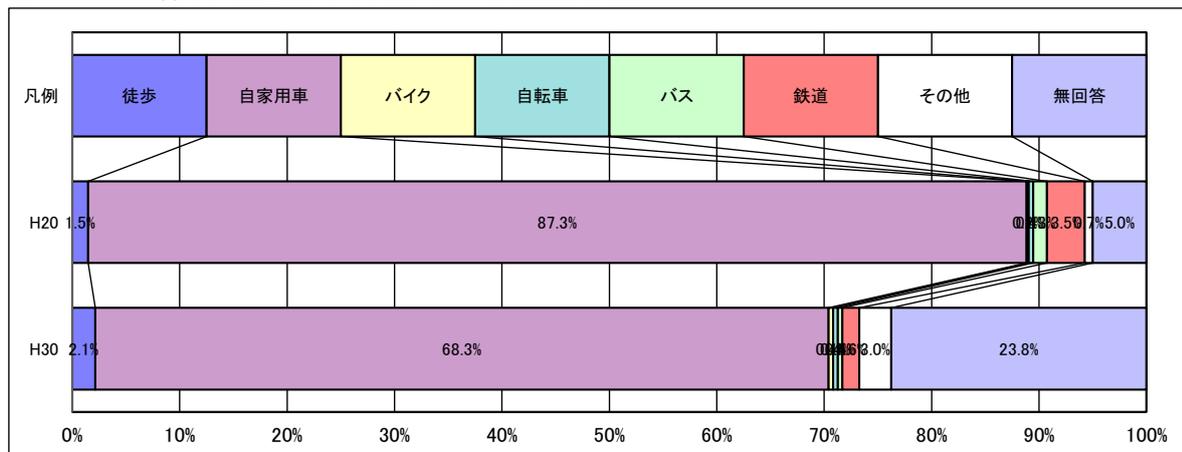
休日の遊びや外出の主な交通手段は、平成 30 年調査では「自家用車」が 68.3%と約 3 分の 2 を占めています。次いで「その他」の 3.0%、「徒歩」の 2.1%と続いています。

平成 20 年調査と比較すると、「徒歩」「バイク」「その他」の回答者割合が増えて、「自家用車」「バス」「鉄道」の回答者割合が減っています。「自転車」の回答割合は変わっていません。

表 3- 16 休日の遊びや外出の主な交通手段

回答番号	回答内容	H30		H20	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	徒歩	15	2.1%	14	1.5%
2	自家用車	480	68.3%	821	87.3%
3	バイク	3	0.4%	2	0.2%
4	自転車	3	0.4%	4	0.4%
5	バス	3	0.4%	12	1.3%
6	鉄道	11	1.6%	33	3.5%
7	その他	21	3.0%	7	0.7%
—	無回答	167	23.8%	47	5.0%
—	計	703	100.0%	940	100.0%

図 3- 16 休日の遊びや外出の主な交通手段



(5) 病院や医院・診療所にかかる際の行き先 (問 15)

① 病院や医院・診療所にかかる際の行き先

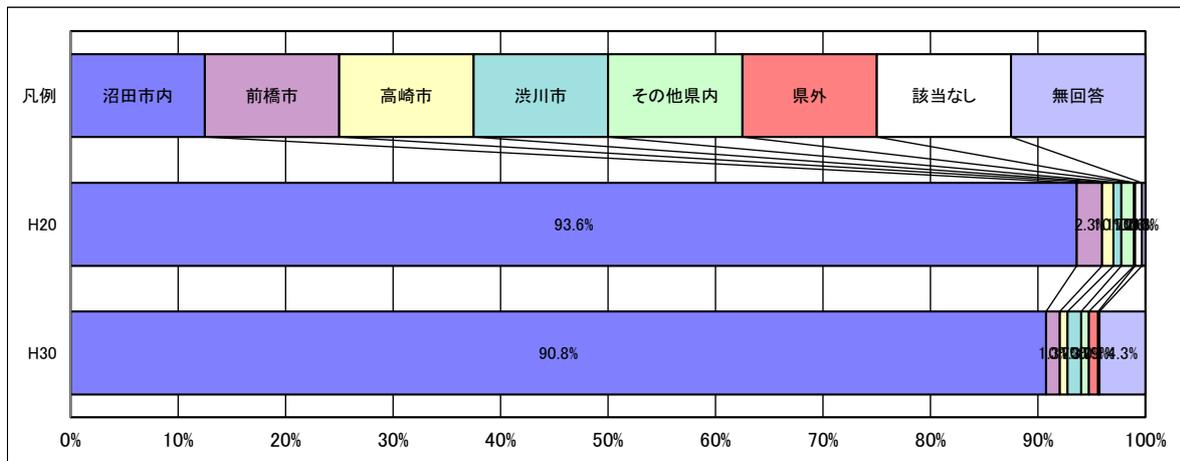
病院や医院・診療所にかかる際の行き先は、平成 30 年調査では「沼田市内」が 90.8%と 9 割を超えています。次いで「前橋市」「渋川市」の 1.3%、「県外」の 0.9%と続いています。

平成 20 年調査と比較すると、「渋川市」「県外」の回答者割合が増えて、「沼田市内」「前橋市」「高崎市」「その他県内」「該当無し」の回答者割合が減っています。

表 3- 17 病院や医院・診療所にかかる際の行き先

回答番号	回答内容	H30		H20	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	沼田市内	638	90.8%	880	93.6%
2	前橋市	9	1.3%	22	2.3%
3	高崎市	5	0.7%	10	1.1%
4	渋川市	9	1.3%	7	0.7%
5	その他県内	5	0.7%	11	1.2%
6	県外	6	0.9%	1	0.1%
7	該当なし	1	0.1%	6	0.6%
—	無回答	30	4.3%	3	0.3%
—	計	703	100.0%	940	100.0%

図 3- 17 病院や医院・診療所にかかる際の行き先



## ②病院や医院・診療所にかかる際の主な交通手段

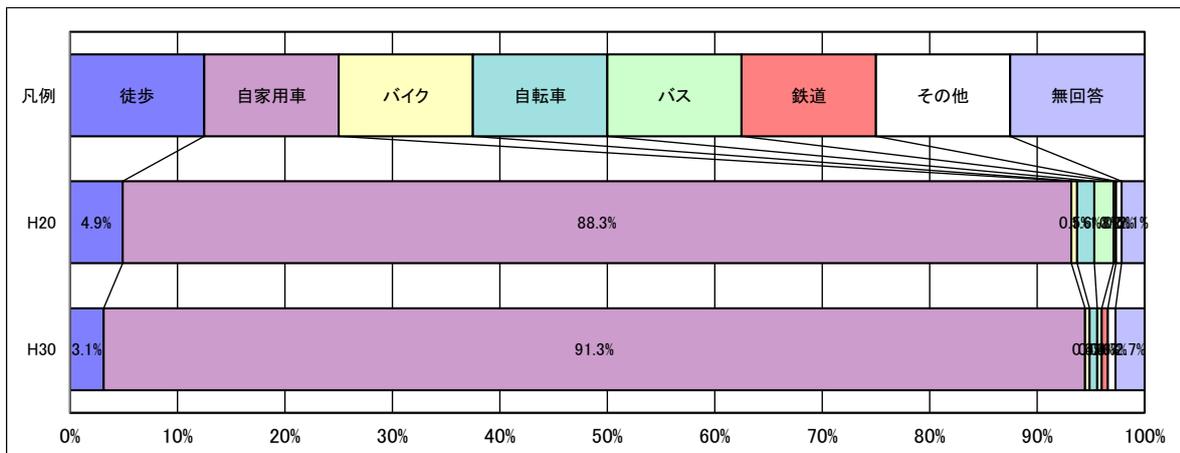
病院や医院・診療所にかかる際の主な交通手段は、平成 30 年調査では「自家用車」が 91.3%と 9 割を超えています。次いで「徒歩」の 3.1%、「自転車」「その他」の 0.7%と続いています。

平成 20 年調査と比較すると、「自家用車」「鉄道」「その他」の回答者割合が増えて、「徒歩」「バイク」「自転車」「バス」の回答者割合が減っています。

表 3- 18 病院や医院・診療所にかかる際の主な交通手段

回答番号	回答内容	H30		H20	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	徒歩	22	3.1%	46	4.9%
2	自家用車	642	91.3%	830	88.3%
3	バイク	3	0.4%	5	0.5%
4	自転車	5	0.7%	15	1.6%
5	バス	3	0.4%	17	1.8%
6	鉄道	4	0.6%	2	0.2%
7	その他	5	0.7%	5	0.5%
—	無回答	19	2.7%	20	2.1%
—	計	703	100.0%	940	100.0%

図 3- 18 病院や医院・診療所にかかる際の主な交通手段



(6) 生涯学習や文化活動、スポーツ活動、習い事の行き先 (問 16)

①生涯学習や文化活動、スポーツ活動、習い事の行き先

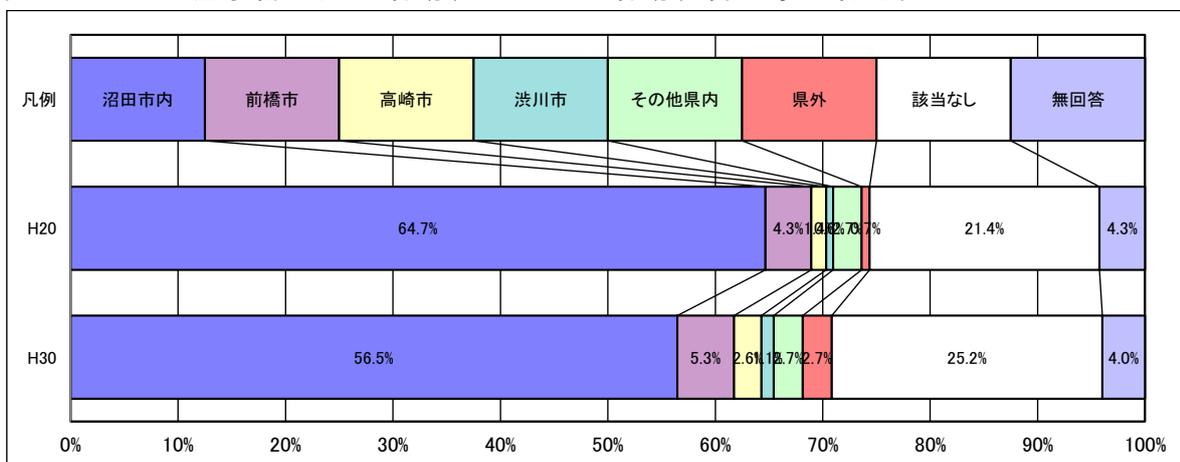
生涯学習や文化活動、スポーツ活動、習い事の行き先は、平成 30 年調査では「沼田市内」が 56.5%と過半を占めています。次いで「前橋市」の 5.3%、「その他県内」「県外」の 2.7%と続いています。

平成 20 年調査と比較すると、「前橋市」「高崎市」「渋川市」「県外」「該当無し」の回答者割合が増えて、「沼田市内」の回答者割合が減っています。「その他県内」の回答割合は変わっていません。

表 2- 19 生涯学習や文化活動、スポーツ活動、習い事の行き先

回答番号	回答内容	H30		H20	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	沼田市内	397	56.5%	608	64.7%
2	前橋市	37	5.3%	40	4.3%
3	高崎市	18	2.6%	13	1.4%
4	渋川市	8	1.1%	6	0.6%
5	その他県内	19	2.7%	25	2.7%
6	県外	19	2.7%	7	0.7%
7	該当なし	177	25.2%	201	21.4%
—	無回答	28	4.0%	40	4.3%
—	計	703	100.0%	940	100.0%

図 2- 19 生涯学習や文化活動、スポーツ活動、習い事の行き先



②生涯学習や文化活動、スポーツ活動、習い事の際の主な交通手段

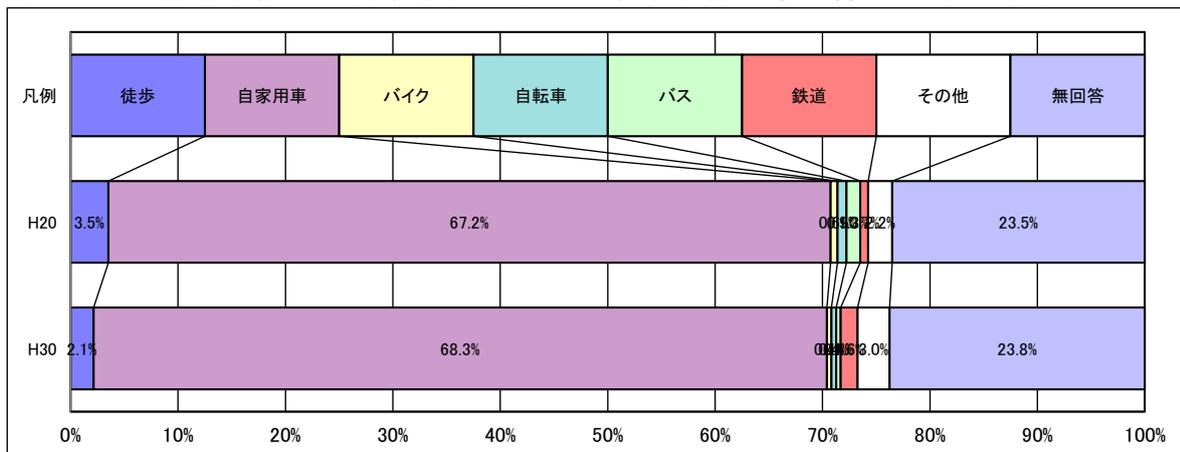
生涯学習や文化活動、スポーツ活動、習い事の際の主な交通手段は、平成 30 年調査では「自家用車」が 68.3%と約 3 分の 2 を占めています。次いで「その他」の 3.0%、「鉄道」の 1.6%と続いています。

平成 20 年調査と比較すると、「自家用車」「鉄道」「その他」の回答者割合が増えて、「徒歩」「バイク」「自転車」「バス」の回答者割合が減っています。

表 2- 20 生涯学習や文化活動、スポーツ活動、習い事の際の主な交通手段

回答番号	回答内容	H30		H20	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	徒歩	15	2.1%	33	3.5%
2	自家用車	480	68.3%	632	67.2%
3	バイク	3	0.4%	6	0.6%
4	自転車	3	0.4%	8	0.9%
5	バス	3	0.4%	12	1.3%
6	鉄道	11	1.6%	7	0.7%
7	その他	21	3.0%	21	2.2%
—	無回答	167	23.8%	221	23.5%
—	計	703	100.0%	940	100.0%

図 2- 20 生涯学習や文化活動、スポーツ活動、習い事の際の主な交通手段



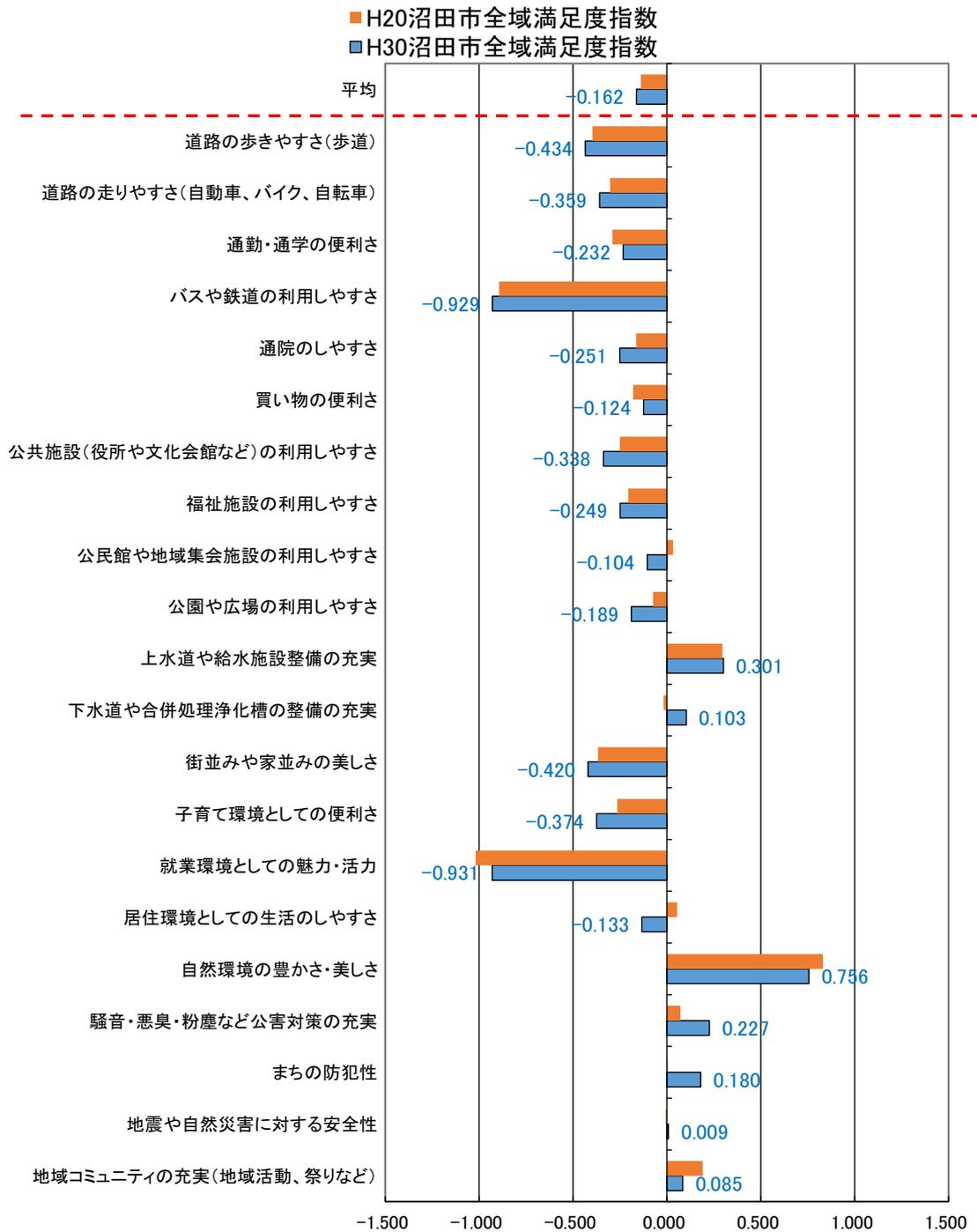
### 3. 居住地区の評価

#### (1) 項目毎の満足度（問 17①）

項目毎の満足度について、平成 30 年調査と平成 20 年調査を比較すると、平成 30 年調査の満足度指数の平均値が低下しています。

項目別には、「騒音・悪臭・粉塵など公害対策の充実」「まちの防犯性」などで満足度指数が上昇し、「バスや鉄道の利用しやすさ」「自然環境の豊かさ・美しさ」などで満足度指数が低下しています。

図 3- 21 居住地区の項目毎の満足度指数



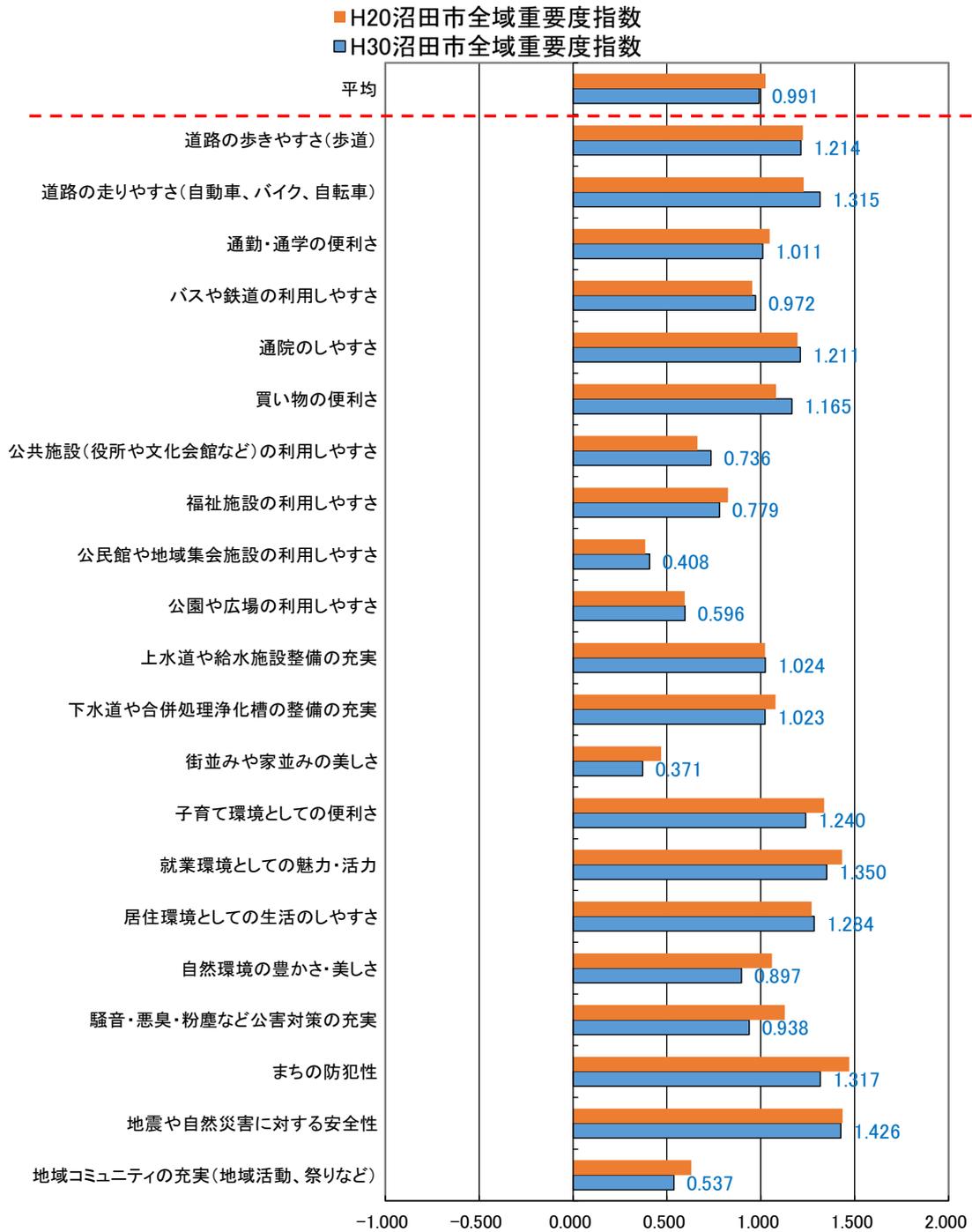
$$\text{満足度指数} = \frac{\text{満足回答数} \times 2 + \text{やや満足回答数} \times 1 + \text{どちらでもない回答数} \times 0 + \text{やや不満回答数} \times (-1) + \text{不満回答数} \times (-2)}{\text{総指摘数}}$$

(2) 項目毎の重要度 (問 17②)

項目毎の重要度について、平成 30 年調査と平成 20 年調査を比較すると、平成 30 年調査の重要度指数の平均値が低下しています。

項目別には、「買い物の便利さ」「道路の走りやすさ」などで重要度指数が上昇し、「まちの防犯性」「地域コミュニティの充実」などで重要度指数が低下しています。

図 3- 22 居住地区の項目毎の重要度指数



$$\text{重要度指数} = \frac{\text{とても重要回答数} \times 2 + \text{やや重要回答数} \times 1 + \text{あまり重要でない回答数} \times (-1) + \text{重要でない回答数} \times (-2)}{\text{総指摘数}}$$

(3) 自慢できる、又は、誇れる「もの」や「ことがら」（自由回答、キーワード集計）  
 (問 18)

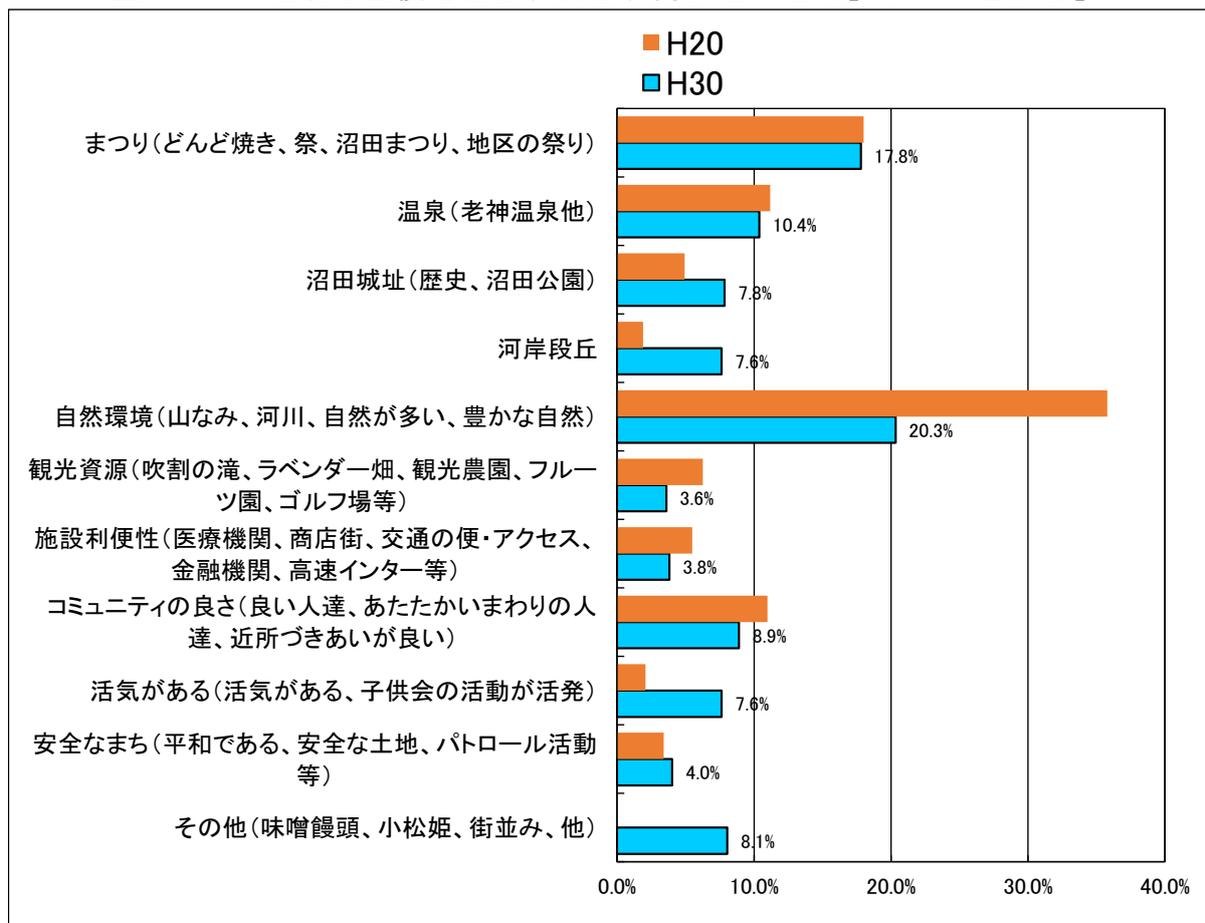
住んでいる地区やまちで自慢できる、誇りに思う「もの」や「ことがら」は、平成30年調査では「自然環境」とする回答が20.3%と最も多く、次いで「まつり」の17.8%、「温泉」の10.4%と続いています。

平成20年調査と比較すると、「沼田城址」「河岸段丘」「活気がある」「安全なまち」の回答者割合が増えて、「自然環境」の回答者割合が大きく減っています。

表 3- 21 地域の自慢できる、又は、誇れる「もの」や「ことがら」

回答番号	回答内容	H30		H20	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	まつり(どんど焼き、祭、沼田まつり、地区の祭り)	84	17.8%	95	18.0%
2	温泉(老神温泉他)	49	10.4%	59	11.2%
3	沼田城址(歴史、沼田公園)	37	7.8%	26	4.9%
4	河岸段丘	36	7.6%	10	1.9%
5	自然環境(山なみ、河川、自然が多い、豊かな自然)	96	20.3%	189	35.8%
6	観光資源(吹割の滝、ラベンダー畑、観光農園、フルーツ園、ゴルフ場等)	17	3.6%	33	6.3%
7	施設利便性(医療機関、商店街、交通の便・アクセス、金融機関、高速インター等)	18	3.8%	29	5.5%
8	コミュニティの良さ(良い人達、あたたかいまわりの人達、近所づきあいが良い)	42	8.9%	58	11.0%
9	活気がある(活気がある、子供会の活動が活発)	36	7.6%	11	2.1%
10	安全なまち(平和である、安全な土地、パトロール活動等)	19	4.0%	18	3.4%
—	その他(味噌饅頭、小松姫、街並み、他)	38	8.1%	0	0.0%
—	計	472	100.0%	528	100.0%

図 3- 23 地域の自慢できる、又は、誇れる「もの」や「ことがら」



#### 4. これからの沼田市のまちづくり

##### (1) 市街地や集落の拡大（問 19）

市街地や集落の拡大について考えをたずねたところ、平成 30 年調査では「拡大を抑え、今ある市街地や集落を充実させたほうがよい」とする回答が 27.5%、「もっと集約したほうがよい」とする回答が 12.9%で、合わせて 40.4%を占めています。一方、「多少の拡大は良い」とする回答が 22.2%、「積極的に拡大を図るほうがよい」とする回答が 8.3%で、合わせて 30.5%を占めています。どちらかと言えば、市街地や集落の拡大を抑える方向を求める考え方が多くなっています。

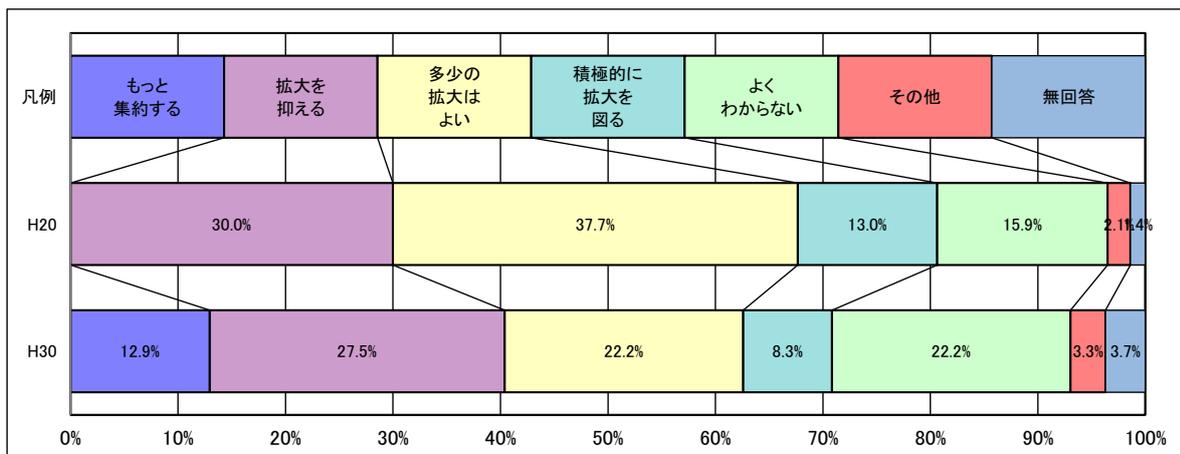
平成 20 年の調査から「もっと集約する」という回答項目が増えたため、単純比較にはなりません。今回調査では「拡大を抑える（「もっと集約する」を含む）」という拡大を抑える傾向の回答者割合が平成 20 年調査結果よりも増えて、「多少の拡大は良い」「積極的に拡大を図る」の回答者割合が減っています。また、「よくわからない」の回答者割合も増えています。

表 3- 22 市街地や集落の拡大

回答番号	回答内容	H30		H20	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	もっと集約する	91	12.9%	—	—
2	拡大を抑える	193	27.5%	282	30.0%
3	多少の拡大はよい	156	22.2%	354	37.7%
4	積極的に拡大を図る	58	8.3%	122	13.0%
5	よくわからない	156	22.2%	149	15.9%
6	その他	23	3.3%	20	2.1%
—	無回答	26	3.7%	13	1.4%
—	計	703	100.0%	940	100.0%

注) 平成 20 年は「もっと集約する」の選択肢はありませんでした

図 3- 24 市街地や集落の拡大



(2) まちづくりのルール (問 20)

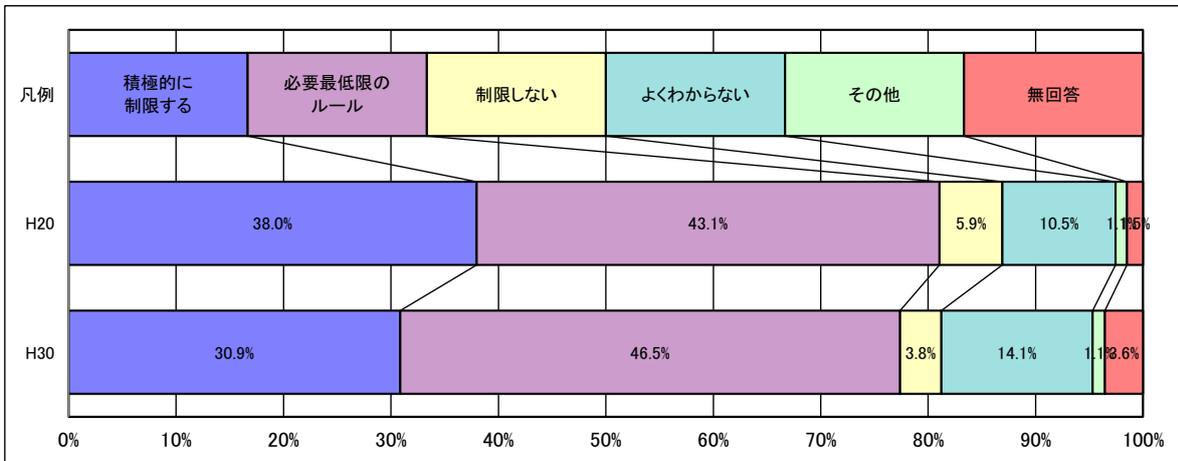
農地や緑地の宅地化の制限、建築物の種類や大きさ、高さに対するルールについて考えをたずねたところ、平成 30 年調査では「必要最低限のルールがあればよい」とする回答が 46.5%と最も多くの回答を占めています。次いで「積極的に制限する」が 30.9%、「よくわからない」が 14.1%と続いています。

平成 20 年調査と比較すると、「必要最低限のルール」「よくわからない」の回答者割合が増えて、「積極的に制限する」「制限しない」の回答者割合が減っています。「その他」の回答者割合は変わっていません。

表 3- 23 まちづくりのルール

回答番号	回答内容	H30		H20	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	積極的に制限する	217	30.9%	357	38.0%
2	必要最低限のルール	327	46.5%	405	43.1%
3	制限しない	27	3.8%	55	5.9%
4	よくわからない	99	14.1%	99	10.5%
5	その他	8	1.1%	10	1.1%
6	無回答	25	3.6%	14	1.5%
—	計	703	100.0%	940	100.0%

図 3- 25 まちづくりのルール



(3) 住宅地の整備・確保（複数回答）（問 21）

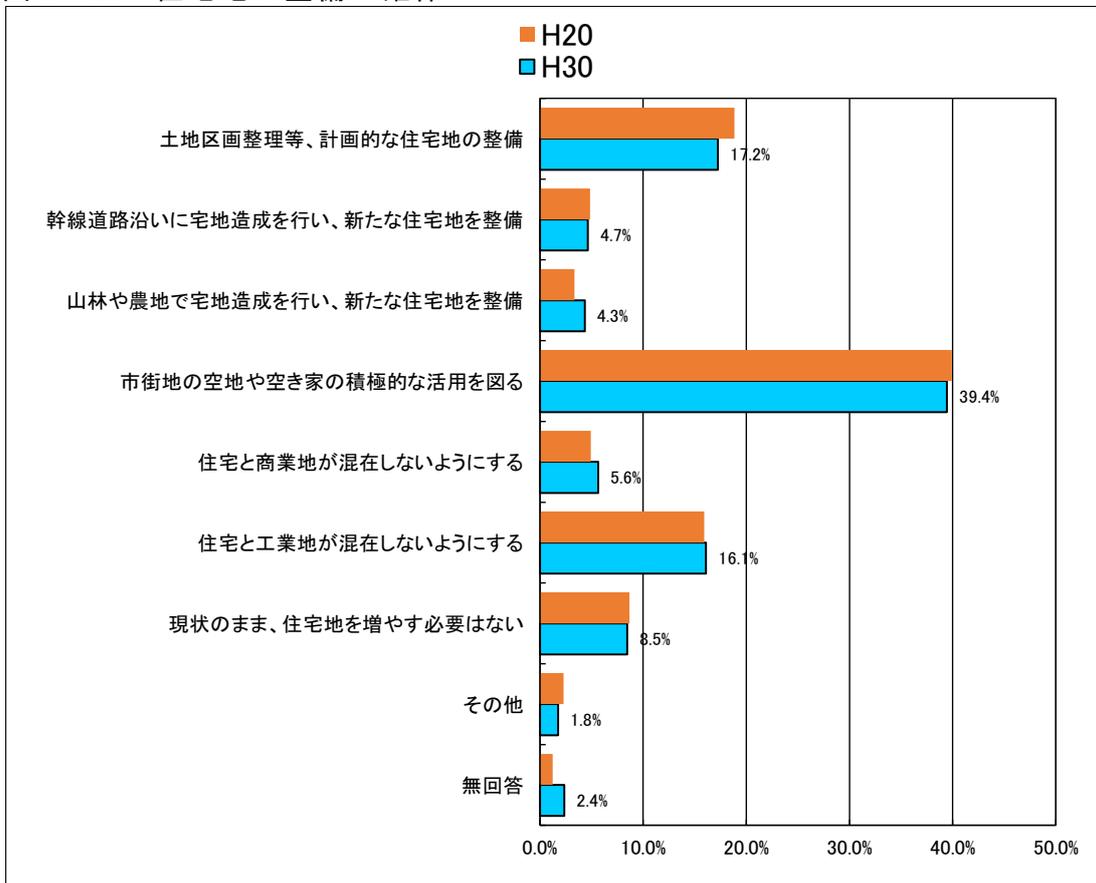
住宅地の整備・確保について考えをたずねたところ、平成 30 年調査では「市街地の空地や空き家の積極的な活用を図る」ことを重要とする回答が 39.4%と約 4 割を占め最も多くなっています。次いで「土地区画整理等、計画的な住宅地の整備」の 17.2%、「住宅と工業地が混在しないようにする」の 16.1%と続いています。

平成 20 年調査と比較すると、「山林や農地で宅地開発を行い、新たな住宅地を整備」の回答者割合が増えて、「山林や農地で宅地開発を行い、新たな住宅地を整備」以外の回答者割合が減っています。

表 3- 24 住宅地の整備・確保

回答番号	回答内容	H30		H20	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	土地区画整理等、計画的な住宅地の整備	226	17.2%	337	18.8%
2	幹線道路沿いに宅地造成を行い、新たな住宅地を整備	61	4.7%	87	4.9%
3	山林や農地で宅地造成を行い、新たな住宅地を整備	57	4.3%	60	3.4%
4	市街地の空地や空き家の積極的な活用を図る	517	39.4%	714	39.9%
5	住宅と商業地が混在しないようにする	74	5.6%	88	4.9%
6	住宅と工業地が混在しないようにする	211	16.1%	285	15.9%
7	現状のまま、住宅地を増やす必要はない	111	8.5%	155	8.7%
8	その他	23	1.8%	41	2.3%
—	無回答	31	2.4%	22	1.2%
—	計	1311	100.0%	1789	100.0%

図 3- 26 住宅地の整備・確保



(4) 農村地域や農地・山林（複数回答）（問 22）

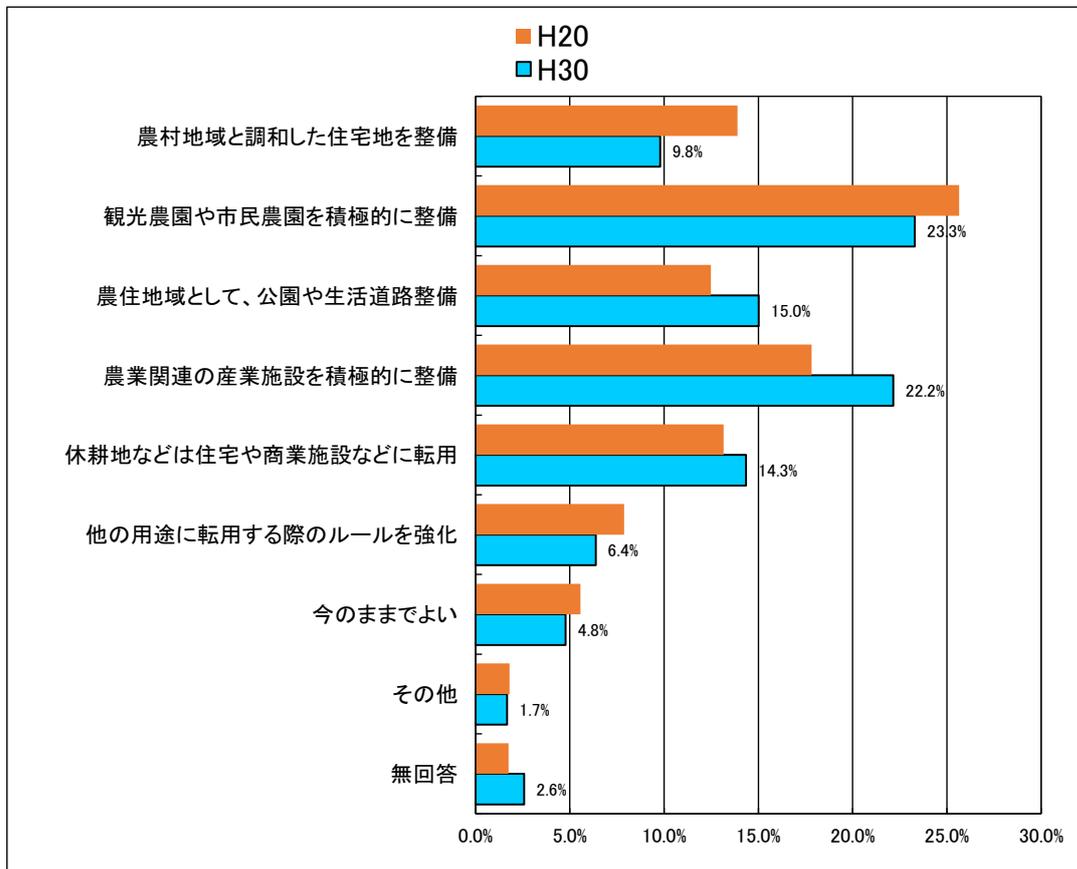
農村地域や農地・山林について考えをたずねたところ、平成 30 年調査では「観光農園や市民農園を積極的に整備」を重要とする回答が 23.3%と最も多くを占めています。次いで「農業関連の産業施設を積極的に整備」が 22.2%、「農住地域として公園や生活道路整備」が 15.0%と続いています。

平成 20 年調査と比較すると、「農住地域として、公園や生活道路整備」「農業関連の産業施設を積極的に整備」「休耕地などは住宅や商業施設などに転用」の回答者割合が増えて、「農村地域と調和した住宅地を整備」「観光農園や市民農園を積極的に整備」「他の用途に転用する際のルールを強化」「今のままでよい」「その他」の回答者割合が減っています。

表 3- 25 農村地域や農地・山林

回答番号	回答内容	H30		H20	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	農村地域と調和した住宅地を整備	129	9.8%	247	13.9%
2	観光農園や市民農園を積極的に整備	307	23.3%	456	25.6%
3	農住地域として、公園や生活道路整備	198	15.0%	222	12.5%
4	農業関連の産業施設を積極的に整備	292	22.2%	317	17.8%
5	休耕地などは住宅や商業施設などに転用	189	14.3%	234	13.2%
6	他の用途に転用する際のルールを強化	84	6.4%	140	7.9%
7	今のままでよい	63	4.8%	99	5.6%
8	その他	22	1.7%	32	1.8%
—	無回答	34	2.6%	31	1.7%
—	計	1318	100.0%	1778	100.0%

図 3- 27 農村地域や農地・山林



(5) 工場や工業用地のあり方（複数回答）（問 23）

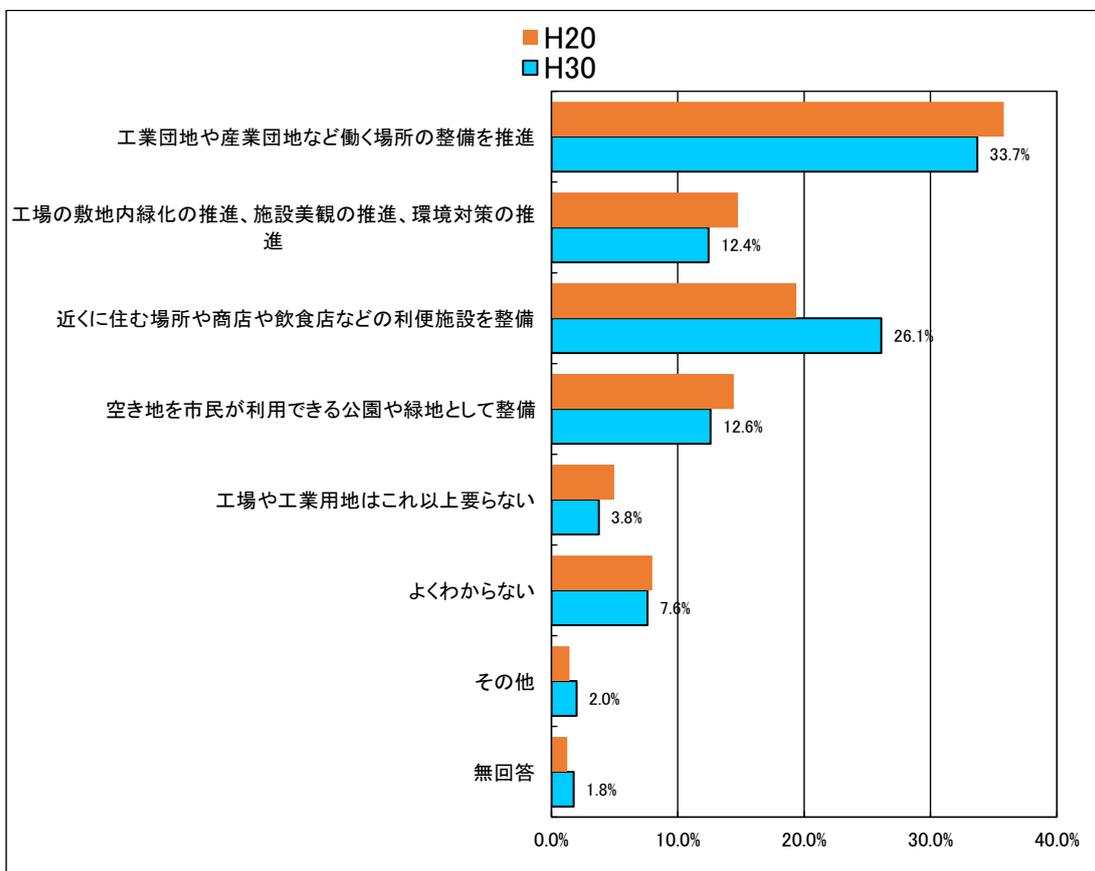
工場や工業用地のあり方について考えをたずねたところ、平成 30 年調査では「雇用拡大のため、工業団地や産業団地など働く場所の整備を推進する」と考える回答が 33.7%と 3 割を超えて最も多くなっています。次いで「近くに住む場所や商店や飲食店などの利便施設を整備する」が 26.1%、「空き地を市民が利用できる公園や緑地として整備する」が 12.6%と続いています。

平成 20 年調査と比較すると、「近くに住む場所や商店や飲食店などの利便施設を整備」「その他」の回答者割合が増えて、これ以外の回答者割合が減っています。

表 3- 26 工場や工業用地のあり方

回答番号	回答内容	H30		H20	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	工業団地や産業団地など働く場所の整備を推進	439	33.7%	628	35.8%
2	工場の敷地内緑化の推進、施設美観の推進、環境対策の推進	162	12.4%	259	14.8%
3	近くに住む場所や商店や飲食店などの利便施設を整備	340	26.1%	340	19.4%
4	空き地を市民が利用できる公園や緑地として整備	164	12.6%	253	14.4%
5	工場や工業用地はこれ以上要らない	49	3.8%	87	5.0%
6	よくわからない	99	7.6%	140	8.0%
7	その他	26	2.0%	25	1.4%
—	無回答	23	1.8%	22	1.3%
—	計	1302	100.0%	1754	100.0%

図 3- 28 工場や工業用地のあり方



(6) 商業地や商業施設のあり方（複数回答）（問 24）

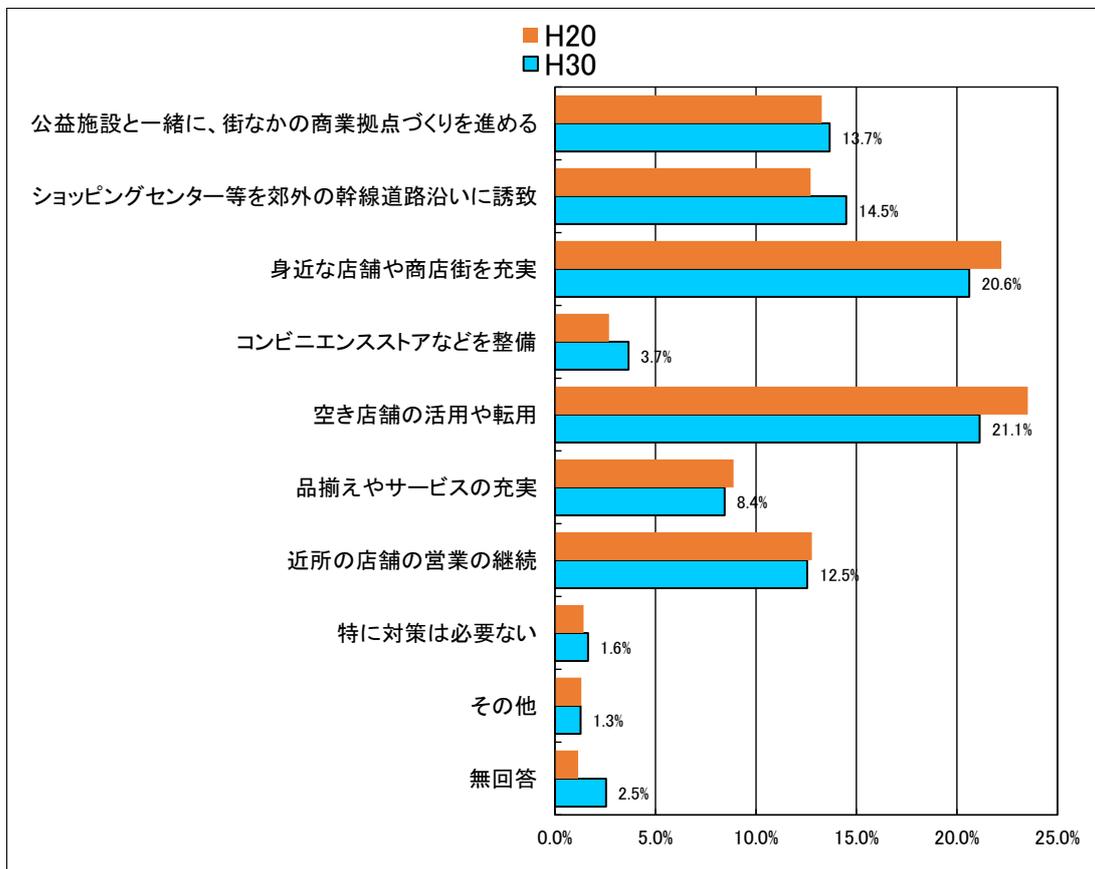
商業地や商業施設のあり方について考えをたずねたところ、平成 30 年調査では「空き店舗の活用や転用を積極的に考えてほしい」と考える回答が 21.1%と約 2 割を占め最も多くなっています。次いで「身近な店舗や商店街を充実」が 20.6%、「ショッピング等を郊外の幹線道路沿いに誘致」が 14.5%と続いています。

平成 20 年調査と比較すると、「公益施設と一緒に街なかの商業拠点づくりを進める」「ショッピング等を郊外の幹線道路沿いに誘致」「コンビニエンスストアなどを整備」「特に対策は必要ない」の回答者割合が増えて、「身近な店舗や商店街を充実」「空き店舗の活用や転用」「品揃えやサービスの充実」「近所の店舗の営業の継続」の回答者割合が減っています。

表 3- 27 商業地や商業施設のあり方

回答番号	回答内容	H30		H20	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	公益施設と一緒に、街なかの商業拠点づくりを進める	183	13.7%	242	13.3%
2	ショッピングセンター等を郊外の幹線道路沿いに誘致	194	14.5%	232	12.7%
3	身近な店舗や商店街を充実	276	20.6%	405	22.2%
4	コンビニエンスストアなどを整備	49	3.7%	49	2.7%
5	空き店舗の活用や転用	283	21.1%	429	23.5%
6	品揃えやサービスの充実	113	8.4%	162	8.9%
7	近所の店舗の営業の継続	168	12.5%	233	12.8%
8	特に対策は必要ない	22	1.6%	26	1.4%
9	その他	17	1.3%	24	1.3%
—	無回答	34	2.5%	21	1.2%
—	計	1339	100.0%	1823	100.0%

図 3- 29 商業地や商業施設のあり方



(7) 幹線道路沿いに整備される大型スーパーやホームセンター（複数回答）（問 25）

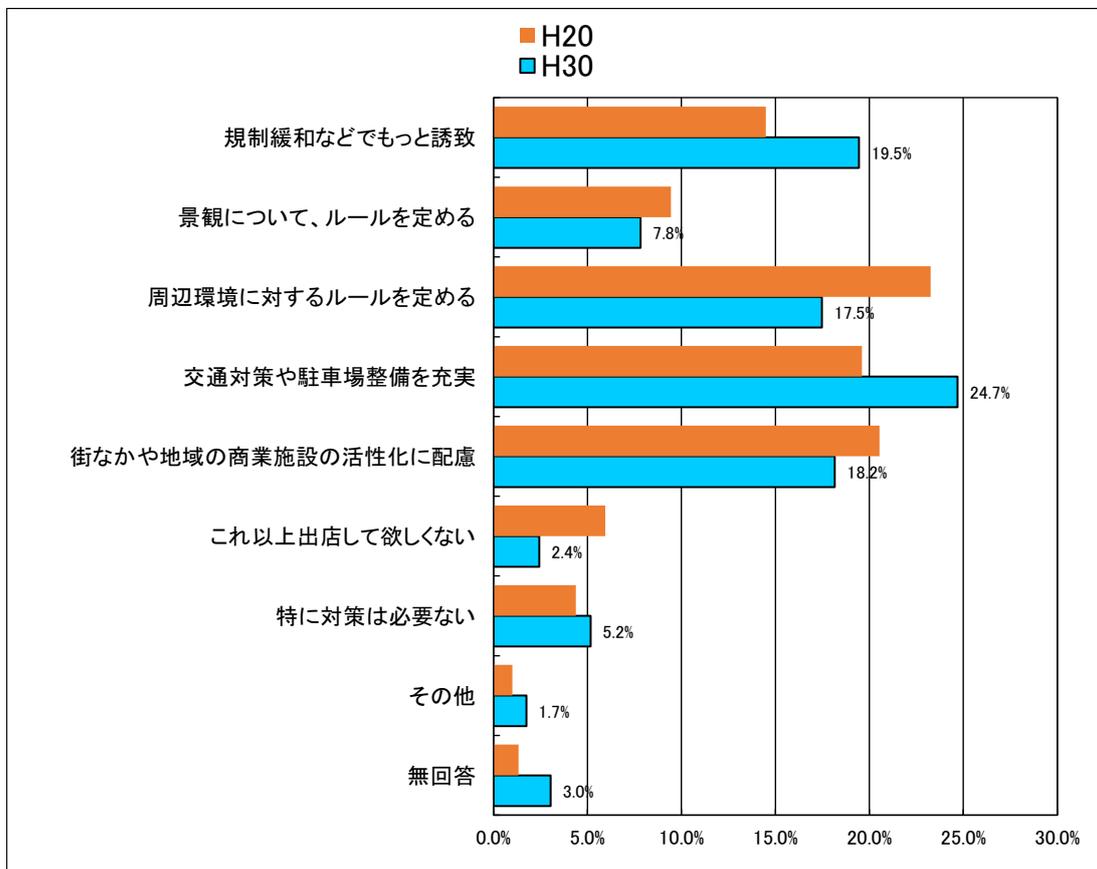
幹線道路沿いに整備される大型スーパーやホームセンターについて考えをたずねたところ、平成 30 年調査では「交通対策や駐車場整備を充実させる」と考える回答が 24.7%と最も多くなっています。次いで「規制緩和などでもっと誘致する」が 19.5%、「街なかや地域の商業施設の活性化に配慮」が 18.2%と続きます。

平成 20 年調査と比較すると、「規制緩和などでもっと誘致」「交通対策や駐車場整備を充実」「特に対策は必要ない」「その他」の回答者割合が増えて、「景観について、ルールを定める」「周辺環境に対するルールを定める」「街なかや地域の商業施設の活性化に配慮」「これ以上出店して欲しくない」の回答者割合が減っています。

表 3- 28 幹線道路沿いに整備される大型スーパーやホームセンター

回答番号	回答内容	H30		H20	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	規制緩和などでもっと誘致	256	19.5%	261	14.5%
2	景観について、ルールを定める	103	7.8%	170	9.4%
3	周辺環境に対するルールを定める	230	17.5%	419	23.3%
4	交通対策や駐車場整備を充実	325	24.7%	353	19.6%
5	街なかや地域の商業施設の活性化に配慮	239	18.2%	370	20.5%
6	これ以上出店して欲しくない	32	2.4%	107	5.9%
7	特に対策は必要ない	68	5.2%	79	4.4%
8	その他	23	1.7%	18	1.0%
—	無回答	40	3.0%	24	1.3%
—	計	1316	100.0%	1801	100.0%

図 3- 30 幹線道路沿いに整備される大型スーパーやホームセンター



(8) 重点的に活用、整備すべき場所や資源（複数回答）（問 26）

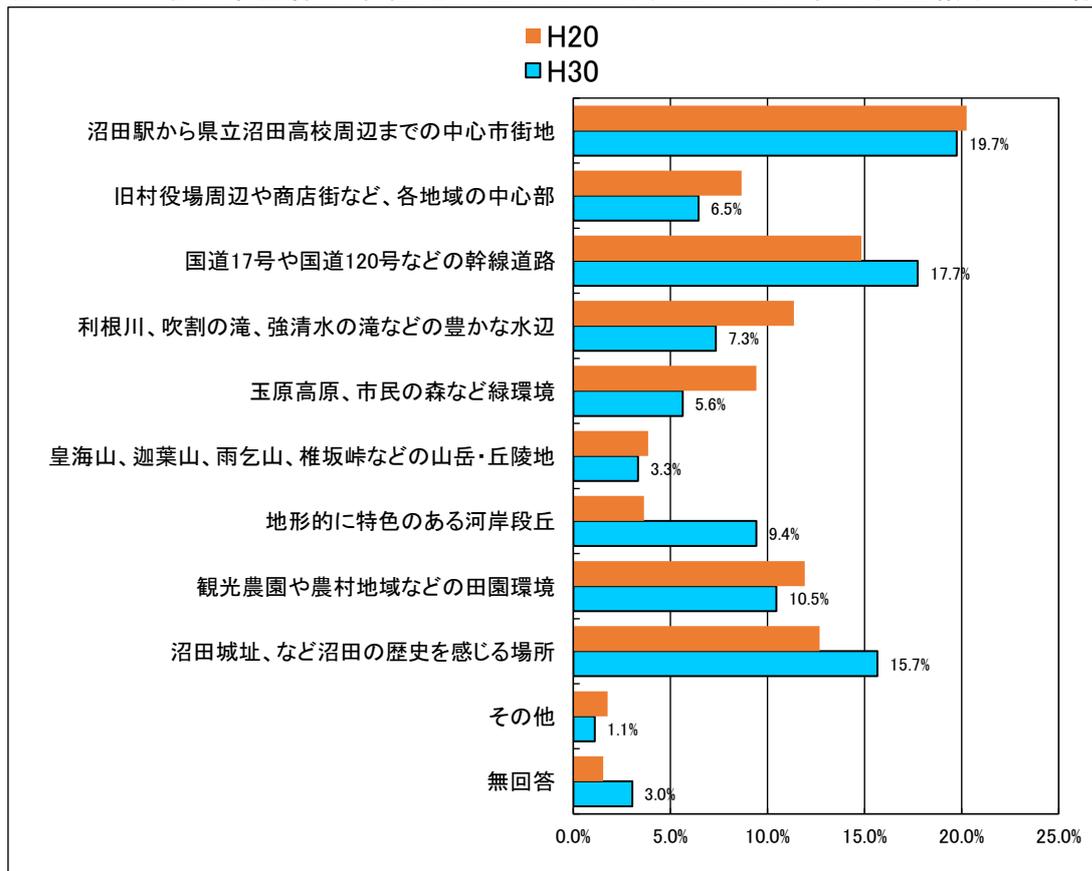
沼田市全体の活性化や魅力付けで重点的に活用、整備すべき場所や資源は、平成 30 年調査では「沼田駅から県立沼田高校周辺までの中心市街地」とする回答が 19.7%と最も多くなっています。次いで「国道 17 号や国道 120 号などの幹線道路」の 17.7%、「沼田城などの沼田の歴史を感じる場所」の 15.7%と続いています。

平成 20 年調査と比較すると、「国道 17 号や国道 120 号などの幹線道路」「地形に特色のある河岸段丘」「沼田城址、などの沼田の歴史を感じる場所」の回答者割合が増えて、「沼田駅から県立沼田高校周辺までの中心市街地」「旧村役場周辺や商店街など、各地域の中心部」「利根川、吹割の滝、強清水の滝などの豊かな水辺」「玉原高原、市民の森など緑環境」「観光農園や農村地域などの田園環境」などの回答者割合が減っています。

表 3- 29 沼田市全体の活性化や魅力付けで、重点的に活用、整備すべき場所や資源

回答番号	回答内容	H30		H20	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	沼田駅から県立沼田高校周辺までの中心市街地	266	19.7%	367	20.3%
2	旧村役場周辺や商店街など、各地域の中心部	87	6.5%	157	8.7%
3	国道17号や国道120号などの幹線道路	239	17.7%	269	14.8%
4	利根川、吹割の滝、強清水の滝などの豊かな水辺	99	7.3%	206	11.4%
5	玉原高原、市民の森など緑環境	76	5.6%	171	9.4%
6	皇海山、迦葉山、雨乞山、椎坂峠などの山岳・丘陵地	45	3.3%	70	3.9%
7	地形的に特色のある河岸段丘	127	9.4%	66	3.6%
8	観光農園や農村地域などの田園環境	141	10.5%	216	11.9%
9	沼田城址、など沼田の歴史を感じる場所	211	15.7%	230	12.7%
10	その他	15	1.1%	32	1.8%
—	無回答	41	3.0%	28	1.5%
—	計	1347	100.0%	1812	100.0%

図 3- 31 沼田市全体の活性化や魅力付けで、重点的に活用、整備すべき場所や資源



## 5. 沼田市の都市基盤整備

### (1) 道路・交通について重点的に取り組むこと（複数回答）（問 27）

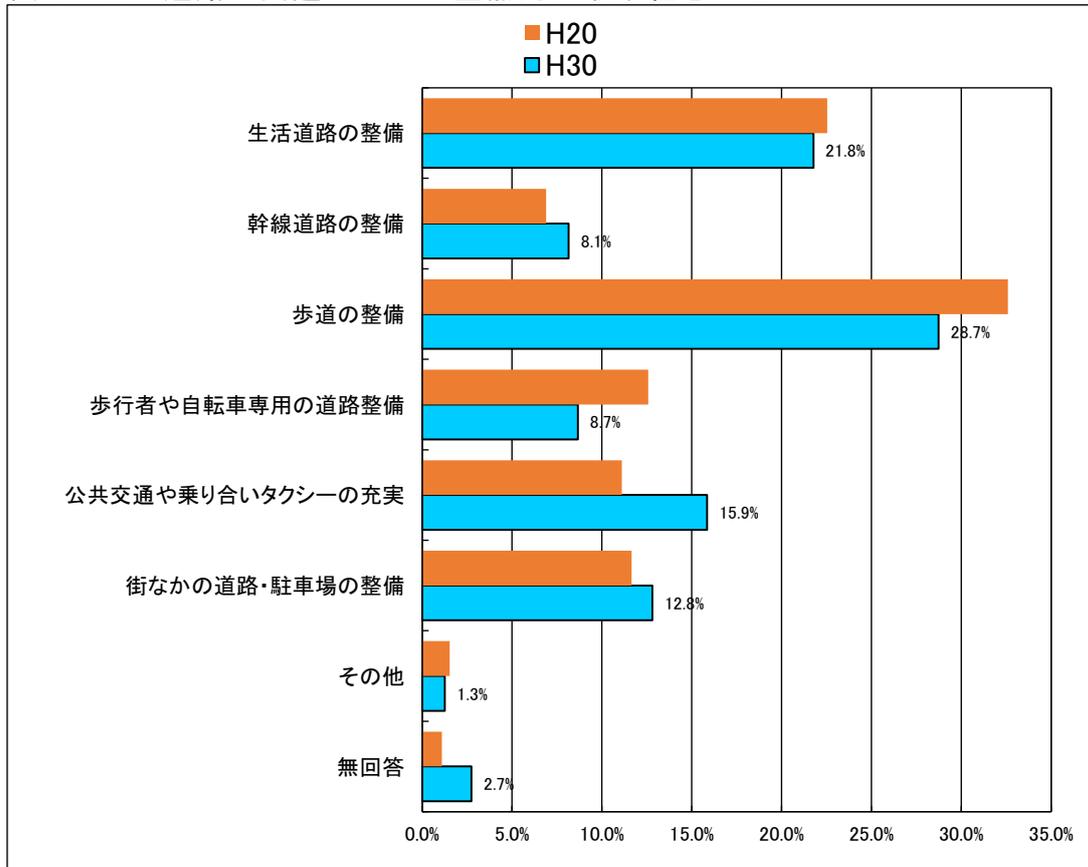
道路や交通について、平成 30 年調査では「歩道の整備」が重点的に取り組むべきこととする回答が 28.7%と約 3 割を占めて最も多くなっています。次いで「生活道路の整備」の 21.8%、「公共交通や乗合タクシーの充実」の 15.9%と続いています。

平成 20 年調査と比較すると、「幹線道路の整備」「公共交通や乗合タクシーの充実」「街なかの道路・駐車場整備」の回答者割合が増えて、「生活道路の整備」「歩道の整備」「歩行者や自転車専用の道路整備」の回答者割合が減っています。

表 3- 30 道路・交通について重点的に取り組むこと

回答番号	回答内容	H30		H20	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	生活道路の整備	294	21.8%	412	22.5%
2	幹線道路の整備	110	8.1%	126	6.9%
3	歩道の整備	388	28.7%	596	32.6%
4	歩行者や自転車専用の道路整備	117	8.7%	230	12.6%
5	公共交通や乗り合いタクシーの充実	214	15.9%	203	11.1%
6	街なかの道路・駐車場の整備	173	12.8%	213	11.7%
7	その他	17	1.3%	28	1.5%
—	無回答	37	2.7%	20	1.1%
—	計	1350	100.0%	1828	100.0%

図 3- 32 道路・交通について重点的に取り組むこと



(2) 公園や広場、市街地の緑化について重点的に取り組むこと（複数回答）（問 28）

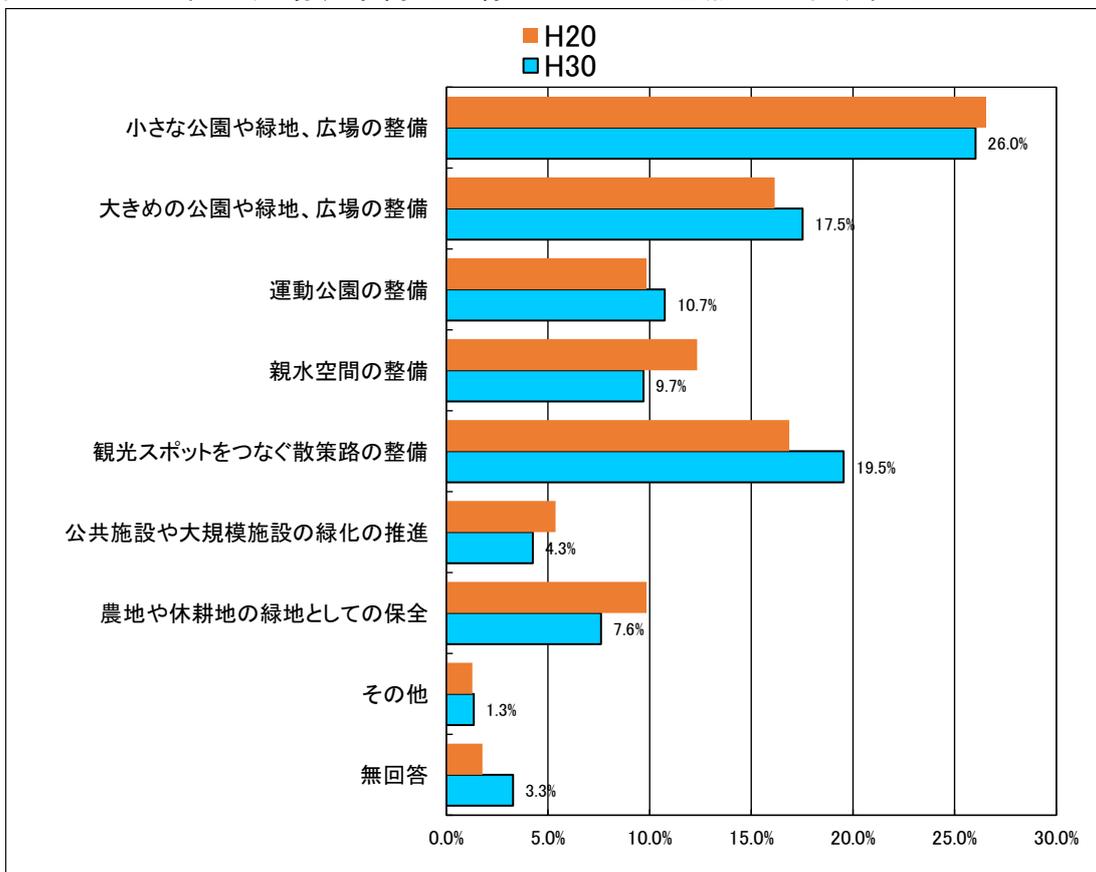
公園や広場、市街地の緑化について、平成 30 年調査では「小さな公園や緑地、広場の整備」が重点的に取り組むべきこととする回答が 26.0%と最も多くなっています。次いで「観光スポットをつなぐ散策路の整備」の 19.5%、「大きめの公園や緑地、広場の整備」の 17.5%と続いています。

平成 20 年調査と比較すると、「大きめの公園や緑地、広場の整備」「運動公園の整備」「観光スポットをつなぐ散策路の整備」「その他」の回答者割合が増えて、「小さな公園や緑地、広場の整備」「親水空間の整備」「公共施設や大規模施設の緑化の推進」「農地や休耕地の緑地としての保全」の回答者割合が減っています。

表 3- 31 公園や広場、市街地の緑化について重点的に取り組むこと

回答番号	回答内容	H30		H20	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	小さな公園や緑地、広場の整備	349	26.0%	480	26.5%
2	大きめの公園や緑地、広場の整備	235	17.5%	292	16.2%
3	運動公園の整備	144	10.7%	178	9.8%
4	親水空間の整備	130	9.7%	223	12.3%
5	観光スポットをつなぐ散策路の整備	262	19.5%	305	16.9%
6	公共施設や大規模施設の緑化の推進	57	4.3%	97	5.4%
7	農地や休耕地の緑地としての保全	102	7.6%	178	9.8%
8	その他	18	1.3%	23	1.3%
—	無回答	44	3.3%	32	1.8%
—	計	1341	100.0%	1808	100.0%

図 3- 33 公園や広場、市街地の緑化について重点的に取り組むこと



(3) 防災について重点的に取り組むこと（複数回答）（問 29）

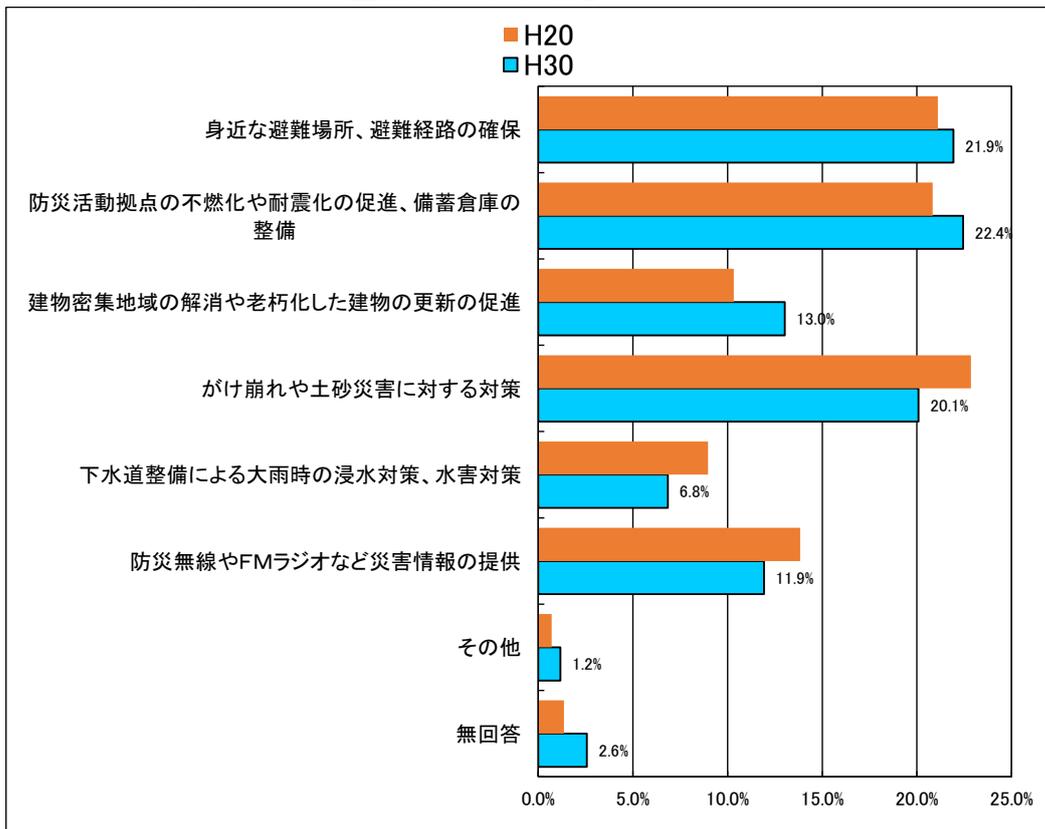
防災について、平成 30 年調査では「防災活動拠点の不燃化や耐震化の促進、備蓄倉庫の整備」を重点的に取り組むべきこととする回答が 22.4%と最も多くなっています。次いで「身近な避難場所、避難経路の確保」の 21.9%、「がけ崩れや土砂災害に対する対策」の 20.1%と続いています。

平成 20 年調査と比較すると、「身近な避難場所、避難経路の確保」「防災活動拠点の不燃化や耐震化の促進、備蓄倉庫の整備」「建物密集地域の解消や老朽化した建物の更新の促進」「その他」の回答者割合が増えて、「がけ崩れや土砂災害に対する対策」「下水道整備による大雨時の浸水対策、水害対策」「防災無線やFMラジオなど災害情報の提供」の回答者割合が減っています。

表 3- 32 防災について重点的に取り組むこと

回答番号	回答内容	H30		H20	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	身近な避難場所、避難経路の確保	298	21.9%	386	21.1%
2	防災活動拠点の不燃化や耐震化の促進、備蓄倉庫の整備	305	22.4%	381	20.8%
3	建物密集地域の解消や老朽化した建物の更新の促進	177	13.0%	189	10.3%
4	がけ崩れや土砂災害に対する対策	273	20.1%	418	22.9%
5	下水道整備による大雨時の浸水対策、水害対策	93	6.8%	164	9.0%
6	防災無線やFMラジオなど災害情報の提供	162	11.9%	253	13.8%
7	その他	16	1.2%	13	0.7%
—	無回答	35	2.6%	25	1.4%
—	計	1359	100.0%	1829	100.0%

図 3- 34 防災について重点的に取り組むこと



(4) 沼田の景観づくりについて重点的に取り組むこと（複数回答）（問 30）

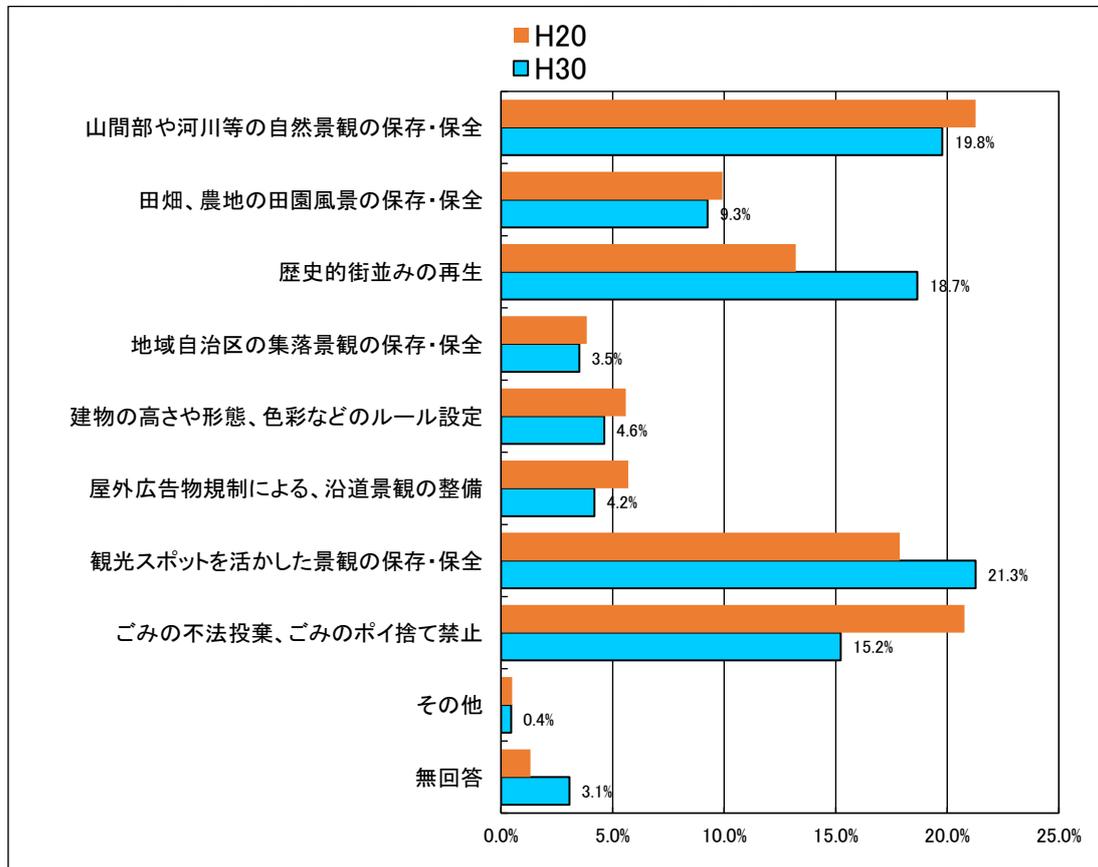
沼田の景観づくりについて、平成 30 年調査では「観光スポットを活かした景観の保存・保全」が重点的に取り組むべきこととする回答が 21.3%と 2 割を超えて最も多くなっています。次いで「山間部や河川等の自然景観の保存・保全」の 19.8%、「歴史的街並みの再生」の 18.7%と続いています。

平成 20 年調査と比較すると、「歴史的街並みの再生」回答者割合が大きく増えて、「観光スポットを活かした景観の保存・保全」の回答者割合も増えています。「ごみの不法投棄、ごみのポイ捨て禁止」の回答者割合が大きく減り、「山間部や河川等の自然景観の保存・保全」「建物の高さや形態、色彩などのルール設定」などの回答者割合も減っています。

表 3- 33 沼田の景観づくりについて重点的に取り組むこと

回答番号	回答内容	H30		H20	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	山間部や河川等の自然景観の保存・保全	265	19.8%	388	21.3%
2	田畑、農地の田園風景の保存・保全	124	9.3%	181	9.9%
3	歴史的街並みの再生	250	18.7%	241	13.2%
4	地域自治区の集落景観の保存・保全	47	3.5%	70	3.8%
5	建物の高さや形態、色彩などのルール設定	62	4.6%	102	5.6%
6	屋外広告物規制による、沿道景観の整備	56	4.2%	104	5.7%
7	観光スポットを活かした景観の保存・保全	285	21.3%	326	17.9%
8	ごみの不法投棄、ごみのポイ捨て禁止	204	15.2%	379	20.8%
9	その他	6	0.4%	9	0.5%
—	無回答	41	3.1%	24	1.3%
—	計	1340	100.0%	1824	100.0%

図 3- 35 沼田の景観づくりについて重点的に取り組むこと



(5) 大切にしたい景観（自由回答、キーワード集計）（問 31）

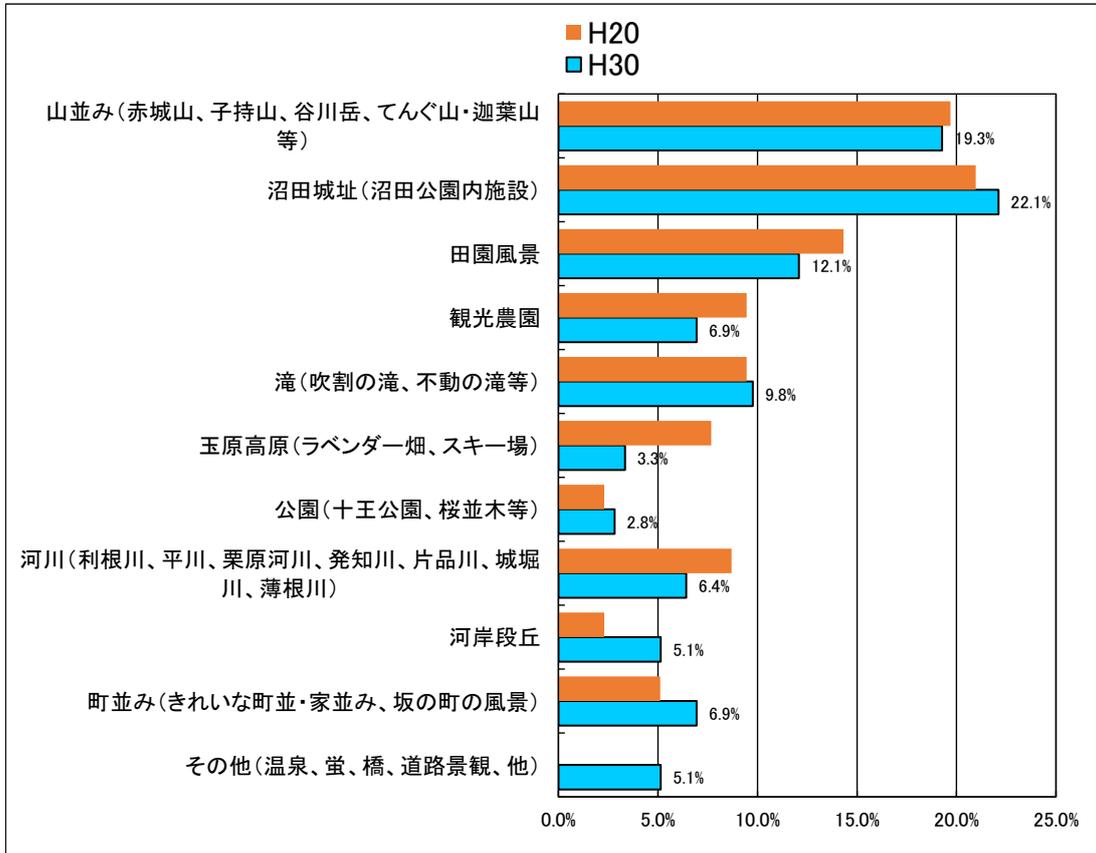
大切にしたい景観について、平成 30 年調査では「沼田城址」が 22.1%と最も多くなっています。次いで「山並み」の 19.3%、「田園景観」の 12.1%と続いています。

平成 20 年調査と比較すると、「沼田城址」「河岸段丘」「町並み」などの回答者割合が増えて、「田園風景」「観光農園」「玉原高原」などの回答者割合が減っています。

表 3- 34 大切にしたい景観

回答番号	回答内容	H30		H20	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	山並み(赤城山、子持山、谷川岳、てんぐ山・迦葉山等)	75	19.3%	77	19.7%
2	沼田城址(沼田公園内施設)	86	22.1%	82	21.0%
3	田園風景	47	12.1%	56	14.3%
4	観光農園	27	6.9%	37	9.5%
5	滝(吹割の滝、不動の滝等)	38	9.8%	37	9.5%
6	玉原高原(ラベンダー畑、スキー場)	13	3.3%	30	7.7%
7	公園(十王公園、桜並木等)	11	2.8%	9	2.3%
8	河川(利根川、平川、栗原河川、発知川、片品川、城堀川、薄根川)	25	6.4%	34	8.7%
9	河岸段丘	20	5.1%	9	2.3%
10	町並み(きれいな町並・家並み、坂の町の風景)	27	6.9%	20	5.1%
—	その他(温泉、蛭、橋、道路景観、他)	20	5.1%	0	0.0%
—	計	389	100.0%	391	100.0%

図 3- 36 大切にしたい景観



## 6. 将来の沼田市の暮らしやすさやまちづくりへの参加

### (1) 概ね 10～20 年後の暮らしたいまち（複数回答）（問 32）

概ね 10～20 年後に、どのようなまちに暮らしたいかたずねたところ、平成 30 年調査では「子どもや高齢者、障がい者に優しい福祉環境の充実したまち」が 20.3%と約 2 割を占めて最も多くなっています。次いで「水と緑が豊かで、自然と田園と市街地のバランスがとれたまち」の 16.2%、「産業の活性化、働く場所が近くにある賑わいと活力のあるまち」の 12.3%と続いています。

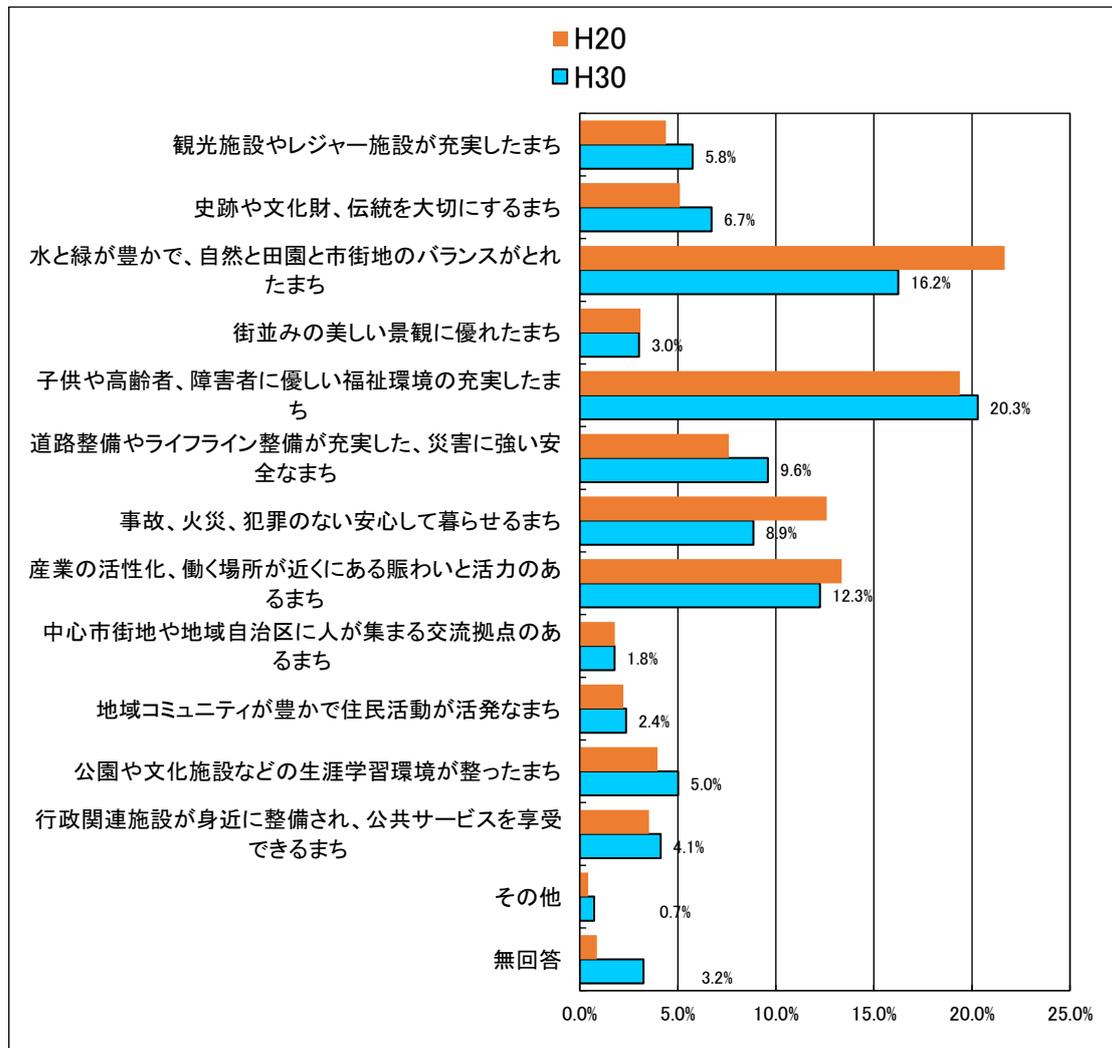
平成 20 年調査と比較すると、「子どもや高齢者、障がい者に優しい福祉環境の充実したまち」「道路整備やインフラ整備が充実した、災害に強い安全なまち」「公園や文化施設などの生涯学習環境が整ったまち」「行政関連施設が身近に整備され、公共サービスを楽しむことができるまち」などの回答者割合が増えて、「水と緑が豊かで、自然と田園と市街地のバランスがとれたまち」「事故、災害、犯罪のない安心して暮らせるまち」などの回答者割合が減っています。

また、平成 20 年調査で最も回答者割合が高かった「水と緑が豊かで、自然と田園と市街地のバランスがとれたまち」は、平成 30 年調査では「子どもや高齢者、障がい者に優しい福祉環境の充実したまち」に変わっています。

表 3- 35 概ね 10～20 年後の暮らしたいまち

回答番号	回答内容	H30		H20	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	観光施設やレジャー施設が充実したまち	78	5.8%	81	4.4%
2	史跡や文化財、伝統を大切にすまち	91	6.7%	94	5.1%
3	水と緑が豊かで、自然と田園と市街地のバランスがとれたまち	220	16.2%	399	21.7%
4	街並みの美しい景観に優れたまち	41	3.0%	57	3.1%
5	子供や高齢者、障害者に優しい福祉環境の充実したまち	275	20.3%	357	19.4%
6	道路整備やライフライン整備が充実した、災害に強い安全なまち	130	9.6%	140	7.6%
7	事故、火災、犯罪のない安心して暮らせるまち	120	8.9%	232	12.6%
8	産業の活性化、働く場所が近くにある賑わいと活力のあるまち	166	12.3%	246	13.4%
9	中心市街地や地域自治区に人が集まる交流拠点のあるまち	24	1.8%	33	1.8%
10	地域コミュニティが豊かで住民活動が活発なまち	32	2.4%	41	2.2%
11	公園や文化施設などの生涯学習環境が整ったまち	68	5.0%	73	4.0%
12	行政関連施設が身近に整備され、公共サービスを楽しむことができるまち	56	4.1%	65	3.5%
13	その他	10	0.7%	8	0.4%
—	無回答	44	3.2%	16	0.9%
—	計	1355	100.0%	1842	100.0%

図 3- 37 概ね 10～20 年後の暮らしたいまち



(2) 沼田市のまちづくりを進める上で市民が取り組めること（複数回答）（問 33）

沼田市のまちづくりを進める上で取り組めることをたずねたところ、平成 30 年調査では「お祭りや各種イベントへの参加」が回答の 24.0%と最も多くなっています。次いで「清掃活動や防犯・防災活動への参加」の 22.1%、「観光ガイドや福祉活動などのボランティア」の 9.1%と続いています。

平成 20 年調査と比較すると、「行政や企業が開催するまちづくりの講演などへの参加」「お祭りや各種イベントへの参加」「どれもできない」などの回答者割合が増えて、「地域のお祭りやイベントを企画・開催する」「まちづくり専門のNPOや団体・企業を組織する」「自治会・区の組織でまちづくりに関する提案を検討・提示する」「観光ガイドや福祉活動などのボランティア」「清掃活動や防犯・防災活動への参加」などの回答者割合が減っています。何らかのまちづくり活動を企画したりするより、行政等が開催するイベント等に参加する取り組みが増えている傾向が見られます。

また、平成 20 年調査で最も回答者割合が高かった「清掃活動や防犯・防災活動への参加」は、平成 30 年調査では「お祭りや各種イベントへの参加」に変わっています。

表 3- 36 沼田市のまちづくりを進める上で市民が取り組めること

回答番号	回答内容	H30		H20	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	地域のお祭りやイベントを企画・開催する	93	7.5%	162	9.5%
2	まちづくり専門のNPOや団体・企業を組織する	34	2.7%	66	3.9%
3	自治会・区の組織でまちづくりに関する提案を検討・提示する	57	4.6%	110	6.5%
4	観光ガイドや福祉活動などのボランティア	113	9.1%	188	11.1%
5	まちの魅力や特産物のPR(観光大使など)	83	6.7%	122	7.2%
6	行政や企業が開催するまちづくりの講演などへの参加	103	8.3%	94	5.5%
7	清掃活動や防犯・防災活動への参加	274	22.1%	417	24.5%
8	お祭りや各種イベントへの参加	297	24.0%	358	21.0%
9	どれもできない	99	8.0%	103	6.1%
10	その他	26	2.1%	33	1.9%
—	無回答	60	4.8%	48	2.8%
—	計	1239	100.0%	1701	100.0%

図 3- 38 沼田市のまちづくりを進める上で市民が取り組めること

